Cisco UCS Director リリース 6.5 エンド ユーザ ポータル ガイド

初版：2017 年 07 月 11 日

シスコシステムズ合同会社
〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー
http://www.cisco.com/jp
お問い合わせ先：シスコ コンタクトセンター
0120-092-255 （フリーコール、携帯・PHS含む）
電話受付時間：平日 10:00～12:00、13:00～17:00
http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/

【注意】シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意（**www.cisco.com/jp/go/safety_warning/**）をご確認ください。本書は、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system.All rights reserved.Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、ネットワーク トポロジ図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

Cisco およびシスコ ロゴは、シスコまたはその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。To view a list of Cisco trademarks, go to this URL: http://www.cisco.com/go/trademarks.Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners.The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company.(1110R)

© 2017 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

目 次

はじめに ix

対象読者 ix

表記法 x

関連資料 xi

マニュアルに関するフィードバック xii

マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート xii

このリリースの新規情報および変更情報 1

このリリースの新規情報および変更情報 1

概要 3

エンド ユーザ ポータル 3

ランディング ページ 4

ヘッダー 6

メニュー 7

サマリー ダッシュレット 7

ダッシュボード 8

共通のアイコン 8

診断リソースの通知 10

診断リソースの通知の形式 10

診断リソースの通知の重大度 11

ユーザ設定とカスタマイズ 13

ユーザ設定とカスタマイズ 13

エンド ユーザ ポータル へのログイン 13

エンド ユーザ ポータル からのログアウト 14

検索 14

レポートの検索 14

項目の検索 14

ユーザ設定 15
使用する言語の設定 15
パスワードの変更 15
アクセス権限の表示 16
デフォルトのアクセス プロファイルの変更 16
ダッシュボード設定 17
ダッシュボードの有効化と無効化 17
カスタム ダッシュボードの作成 17
ダッシュボードへのサマリー レポートの追加 18
ダッシュボードからのサマリー レポートの削除 18
テーブルと列のカスタマイズ 18
テーブル列の構成 18
テーブル エントリのフィルタリング 19
レポート データの更新 20
レポートからのデータのエクスポート 20
サマリー レポートのエクスポート 21
クラシック表示への切り替え 21
カタログ 23
カタログ 23
標準のカタログ用サービス リクエストの作成 24
詳細なカタログのサービス リクエストの作成 25
サービス コンテナ カタログのサービス リクエストの作成 25
ベア メタル カタログのサービス リクエストの作成 26
導入可能性アセスメントの実行 26
サービス 29
サービス 29
サービス リクエスト 29
標準のカタログ用サービス リクエストの作成 30
詳細なカタログのサービス リクエストの作成 32
サービス コンテナ カタログのサービス リクエストの作成 33
ベア メタル カタログのサービス リクエストの作成 34
サービス リクエストのキャンセル 34

サービス リクエストの再送信 35
サービス リクエストのアーカイブ 36
サービス リクエストへのメモの追加 36
サービス リクエストのロールバック 36
ユーザ OVF 管理 37
OVA ファイルのアップロード 38
OVA ファイルの破棄 38
ダウンロード 39
ファイルのダウンロード 39
承認 41
承認 41
サービス リクエストの承認 42
サービス リクエストの拒否 43
サービス リクエストのキャンセル 43
サービス リクエストの再送信 44
サービス リクエストのアーカイブ 45
サービス リクエストへのメモの追加 45
サービス リクエストのロールバック 45
組織 47
組織 47
リソース制限 47
OS 使用状況 48
仮想リソース 49
仮想リソース 49
VDC 50
アプリケーション コンテナ 50
アプリケーション コンテナ レポートの表示 51
アプリケーション コンテナの電源管理 52
アプリケーション コンテナの廃止 52
アプリケーション コンテナの複製 53
アプリケーション コンテナへの VM の追加 53
導入済み APIC アプリケーション コンテナへのベア メタル サーバの追加 54

アプリケーション コンテナの削除 54
VM コンソールへのアクセス 55
リソース制限の編集 56
コスト モデルの編集 56
アプリケーション コンテナ コントラクトの追加 57
VM 57
VM のインベントリ収集のリクエスト 59
VM アクション リクエスト 59
イメージ 59
リソース プール 61
物理リソース 63
物理リソース 63
ボリューム グループ 64
vFiler 64
vFiler ボリューム 65
vFiler ボリューム LUN 66
SnapMirror 67
ストレージ仮想マシン 67
SVM ボリューム 68
SVM LUN 69
SVM イニシエータ グループ 70
SVM イニシエータ 70
SVM CIFS 共有 71
SVM SIS ポリシー 71
SVM エクスポート ポリシー 72
SVM エクスポート ルール 73
SVM スナップショット ポリシー 73
SVM ポート セット 74
SVM WWPN エイリアス 75
サーバ 75
サービス プロファイル 75
VNX LUN 77
VNX ボリューム 77

ブロック ストレージ プール 78
RAID グループ 78
ファイル ストレージ プール 79
ラック サーバ 79
CloudSense レポート 80
CloudSense レポートの生成 81
アカウンティング 83
アカウンティング 83
リソース アカウンティングの詳細 83
チャージバック 84
レポート 85
レポート 85
レポートの表示 86
レポートの電子メール送信 86

はじめに

- 対象読者，ix ページ
- 表記法，x ページ
- 関連資料，xi ページ
- マニュアルに関するフィードバック，xii ページ
- マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート，xii ページ

対象読者

このガイドは、次の 1 つ以上に責任を持ち、専門知識を備えたデータセンター管理者を主な対象にしています。

- サーバ管理
- ストレージ管理
- ネットワーク管理
- ネットワーク セキュリティ
- 仮想化および仮想マシン

このガイドは、エンド ユーザ ポータルのユーザ アカウントを設定ようとしている管理者は対象外です。

エンド ユーザのエンド ユーザ ポータルでの設定の詳細については、『Cisco UCS Director Administration Guide』を参照してください。

表記法

テキストのタイプ	表示
GUI 要素	タブの見出し、領域名、フィールドのラベルのようなGUI要素は、[GUI要素] のように示しています。 ウィンドウ、ダイアログボックス、ウィザードのタイトルのようなメイン タイトルは、[メインタイトル] のように示しています。
マニュアルのタイトル	マニュアルのタイトルは、イタリック体（*Italic*）で示しています。
TUI 要素	テキストベースのユーザ インターフェイスでは、システムによって表示されるテキストは、courier フォントで示しています。
システム出力	システムが表示するターミナル セッションおよび情報は、courier フォントで示しています。
CLI コマンド	CLI コマンドのキーワードは、**this font**で示しています。 CLI コマンド内の変数は、イタリック体（*italic*）で示しています。
[ ]	角カッコの中の要素は、省略可能です。
{x | y | z}	どれか1つを選択しなければならない必須キーワードは、波カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。
[x | y | z]	どれか1つを選択できる省略可能なキーワードは、角カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。
string	引用符を付けない一組の文字。stringの前後には引用符を使用しません。引用符を使用すると、その引用符も含めて string とみなされます。
< >	パスワードのように出力されない文字は、山カッコで囲んで示しています。
[ ]	システム プロンプトに対するデフォルトの応答は、角カッコで囲んで示しています。
!、#	コードの先頭に感嘆符（!）またはポンド記号（#）がある場合には、コメント行であることを示します。

（注） 「注釈」です。役立つ情報や、このマニュアル以外の参照資料などを紹介しています。

注意 「要注意」の意味です。機器の損傷またはデータ損失を予防するための注意事項が記述されています。

ヒント 「問題解決に役立つ情報」です。ヒントには、トラブルシューティングや操作方法ではなく、ワンポイントアドバイスと同様に知っておくと役立つ情報が記述される場合もあります。

ワンポイント アドバイス 「時間の節約に役立つ操作」です。ここに紹介している方法で作業を行うと、時間を短縮できます。

警告 安全上の重要事項

「危険」の意味です。人身事故を予防するための注意事項が記述されています。機器の取り扱い作業を行うときは、電気回路の危険性に注意し、一般的な事故防止策に留意してください。各警告の最後に記載されているステートメント番号を基に、装置に付属の安全についての警告を参照してください。

これらの注意事項を保管しておいてください。

関連資料

『Cisco UCS DirectorDocumentation Roadmap』

Cisco UCS Director の資料の詳細なリストについては、次の URL にある 『*Cisco UCS Director Documentation Roadmap*』 を参照してください。http://www.cisco.com/en/US/docs/unified_computing/ucs/ucs-director/doc-roadmap/b_UCSDirectorDocRoadmap.html

『Cisco UCS Documentation Roadmaps』

すべての B シリーズ マニュアルの完全なリストについては、『*Cisco UCS B-Series Servers Documentation Roadmap*』（URL：http://www.cisco.com/go/unifiedcomputing/b-series-doc）を参照してください。

すべての C シリーズ マニュアルの一覧については、http://www.cisco.com/go/unifiedcomputing/c-series-doc で入手できる『*Cisco UCS C-Series Servers Documentation Roadmap*』を参照してください。

（注） 『*Cisco UCS B-Series Servers Documentation Roadmap*』には Cisco UCS Manager および Cisco UCS Central のドキュメントのリンクが含まれています。『*Cisco UCS C-Series Servers Documentation Roadmap*』には Cisco Integrated Management Controller のドキュメントのリンクが含まれています。

マニュアルに関するフィードバック

このマニュアルに関する技術的なフィードバック、または誤りや記載もれなどお気づきの点がございましたら、ucs-director-docfeedback@cisco.com までコメントをお送りください。ご協力をよろしくお願いいたします。

マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート

マニュアルの入手、Cisco Bug Search Tool（BST）の使用、サービス リクエストの送信、追加情報の収集の詳細については、『What's New in Cisco Product Documentation』を参照してください。

新しく作成された、または改訂されたシスコのテクニカル コンテンツをお手元に直接送信するには、『What's New in Cisco Product Documentation』RSS フィードをご購読ください。RSS フィードは無料のサービスです。

第 1 章

このリリースの新規情報および変更情報

- このリリースの新規情報および変更情報，1 ページ

このリリースの新規情報および変更情報

次の表に、最新リリースに関するこのガイドでの重要な変更点の概要を示します。この表は、このマニュアルに加えられた変更やこのリリースの新しい機能をすべて網羅するものではありません。

表 *1*：*Cisco UCS Director* リリース *6.5* の新規機能と変更された機能

機能	説明	参照先
ランディングページのメニューの新しい場所	メニュー バーが、ランディング ページの上部から左側に移動しました。	ランディング ページ，（4 ページ）
VM レポートからフィールドが削除されました	VM レポートには、[vCenter VM ID] フィールドおよび [vCenter IP] フィールドが表示されなくなりました。	VM，（57 ページ）
カタログのリスト ビューが削除されました	カタログは、テーブル ビューまたはタイル ビューでのみ表示できます。	共通のアイコン，（8 ページ）

このリリースの新規情報および変更情報

第 2 章

概要

- エンド ユーザ ポータル，3 ページ
- ランディング ページ，4 ページ
- ヘッダー，6 ページ
- メニュー，7 ページ
- サマリー ダッシュレット，7 ページ
- ダッシュボード，8 ページ
- 共通のアイコン，8 ページ
- 診断リソースの通知，10 ページ

エンド ユーザ ポータル

エンド ユーザ ポータル は、管理者が提供するサービスのカタログを含むセルフサービス ポータルです。ユーザが利用できるサービスの 1 つをリクエストすると、エンド ユーザ ポータル は、管理者が設定したサービス リクエスト ワークフローを実行します。このワークフローには、セルフサービス プロビジョニング リクエストの承認、必要なコンピューティング、ストレージ ネットワーク リソースの割り当て、さらには、セキュリティとパフォーマンスの設定が含まれます。サービスがプロビジョニングされると、ランディング ページのサマリー ダッシュレットとサマリー レポート、およびエンド ユーザ ポータル 内で使用可能なサービス リクエスト レポートを通じて、サービスの状態を追跡することができます。

エンド ユーザは、管理設定に応じて次の 1 つ以上の操作を実行することができます。

- 仮想マシン（VM）、アプリケーション固有のインフラストラクチャ、およびベアメタル サーバのプロビジョニング
- サービス リクエストの確認と管理
- OVF やその他の画像のアップロードと展開
- プロビジョニングされた仮想リソースと物理リソースのモニタとレポートの作成

- インフラストラクチャをプロビジョニングするためのサービス リクエストの承認

管理者がユーザに必要な権限を割り当てると、追加の機能が使用できる場合があります。

ランディング ページ

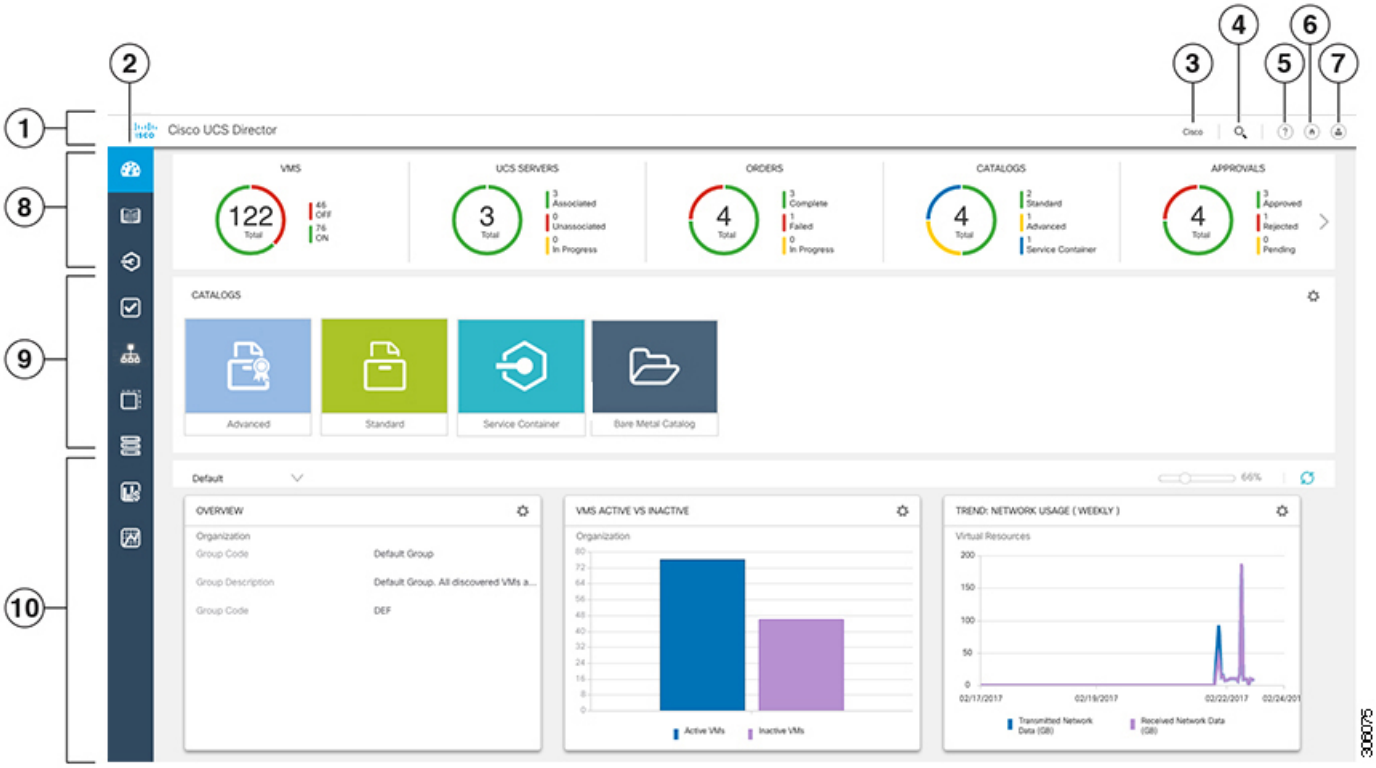
エンド ユーザ ポータル にログインすると、ランディング ページが表示されます。ランディング ページに表示される要素は、ユーザや管理者がどのように表示を設定しているかによって異なります。

次に、ランディング ページで利用可能な要素を示します。

- ヘッダー：ページの上部に表示されます。
- メニュー：エンドユーザポータルの頻繁にアクセスされる要素を表示します。
- サマリーダッシュレット：オプション。サービスとリソースの現在の状態のサマリーが視覚的に表示されます。サマリーダッシュレットは、管理者が設定し、ユーザのダッシュボードが有効になっている場合にのみ、使用できます。
- カタログ：オプション。VMのカタログフォルダ、サービス コンテナ、およびユーザが確認および要求するために使用できるその他のサービスが表示されます。
- ダッシュボード：オプション。ランディング ページへの追加を選択するためのサマリー レポートが表示されます。サマリー レポートは、ダッシュボードが有効になっている場合にのみ使用できます。

（注） 管理者がダッシュレットを設定していないまたはカタログをパブリッシュしていない場合は、「ダッシュレットが設定されていません（No Dashlet Configured）」または「カタログがパブリッシュされていません（No Catalogs Published）」のメッセージが表示されます。

図 *1*：ダッシュボードとサマリー ダッシュレットが表示されているエンド ユーザ ポータルのランディング ページ



番号	名前	説明
1	ヘッダー	メニューなどの頻繁にアクセスする要素が含まれています。ヘッダーは常に表示されています。
2	メニュー	マウスオーバーすると展開され、詳細な機能にアクセスできます。メニューのオプションをクリックすると、メニューが縮小します。
3	リンク	管理者が設定した Web ページへのリンクが提供されます。このリンクはオプションで、管理者が実装していない場合があります。

番号	名前	説明
4	[検索（Search）] アイコン	エンドユーザ ポータルで特定のレポートを検索してそのレポートに直接移動することができます。
5	[ヘルプ（Help）] アイコン	エンドユーザ ポータルのオンライン ヘルプ システムへのリンク。
6	[ホーム（Home）] アイコン	エンドユーザ ポータルの任意の場所からランディング ページに戻ります。
7	[ユーザ（User）] アイコン	プロファイルの編集、ダッシュボードの有効化/無効化、エンドユーザ ポータルのクラシック表示へのアクセス、およびログアウトができます。
8	サマリー ダッシュレット領域	項目の現在の状態の全体的な概要を提供します。この領域には最大5つのダッシュレットを含めることができます。これらのダッシュレットは、管理者が設定し、ユーザのダッシュボードが有効になっている場合にのみ表示されます。
9	カタログ領域	確認およびリクエストに利用可能なカタログへの全体的なアクセスを提供します。カタログ フォルダは管理者によって設定されている場合にのみ使用できます。カタログ領域を非表示にするオプションは、設定アイコンをクリックすると表示されます。
10	ダッシュボード領域	ランディング ページへの追加を選択するためのサマリー レポートが表示されます。デフォルトでは、ダッシュボードは有効になっています。サマリー レポートが表示可能なページの長さを超えると、ランディング ページの右側にスクロール バーが表示されます。

ヘッダー

ヘッダーは エンド ユーザ ポータル の一番上にあります。ヘッダーは、アプリケーションのどのページを開いていても常に表示されます。

ヘッダーには常に以下の要素が含まれています。

- リソースの通知がある場合に表示される [診断リソースの通知（Diagnostic resource notification）] アイコン
- レポートを検索するための [検索（Find）] アイコン

- オンライン ヘルプにアクセスするための [ヘルプ（Help）] アイコン
- ランディング ページに戻るための [ホーム（Home）] アイコン
- エンド ユーザ ポータル のクラシック表示へのアクセス、プロファイルの編集、およびログアウトするための [ユーザ（User）] アイコン

管理者は、ユーザの業務や会社に関連する Web サイトへのリンクを追加できます。

メニュー

メニューは、ランディング ページの左側にあります。このメニューは、使用しているランディング ページに関わらず、常に使用できます。メニューをマウスオーバーすると、メニューが展開されます。メニューのオプションをクリックすると、メニューが縮小します。

（注） メニューにはスクロール バーがありません。メニューには、利用可能なスペースに収まる数のオプションのみ表示されます。画面を最小化またはズームインした場合、いくつかのオプションが表示されない場合があります。

メニューを使用すると、次を含むエンドユーザ ポータルの機能にアクセスすることができます。

- ダッシュボード（ダッシュボードが有効になっている場合）
- カタログ（Catalogs）
- サービス
- 承認
- 組織
- 仮想リソース
- 物理リソース
- アカウンティング（Accounting）
- CloudSense™

サマリー ダッシュレット

サマリー ダッシュレットは、リソースの現在の状態の全体的な概要を提供します。使用可能なダッシュレットは、次のとおりです。

- VM
- UCS サーバ（UCS Servers）
- 注文（Orders）

- カタログ（Catalogs）
- 承認（Approvals）

（注） これらのダッシュレットは、管理者が設定し、ユーザのダッシュボードが有効になっている場合にのみ表示されます。管理者は、使用可能なダッシュレットの一部またはすべてを設定することを選択できます。

各ダッシュレットには、リソースの数、これらのリソースのステータスのビジュアル表示、および凡例と各ステータスのリソースの数が表示されます。

ダッシュレットで凡例をクリックすると、レポートのフィルタ ビューにリダイレクトされます。レポートのフィルタ ビューの作成に使用したフィルタ条件も表示されます。

ダッシュボード

ダッシュボードは、ランディング ページのオプション設定です。この設定はユニバーサルではありません。デフォルトでは、ダッシュボードは有効になっていますが、ユーザ設定でダッシュボードを有効にしないことを選択できます。

ダッシュボードによって、ランディング ページに 1 つ以上のサマリー レポートが追加されます。これらのサマリー レポートでは、展開された VM、ネットワーク使用状況、CPU 使用率、統合された使用率に関するトレンド レポートなどのシステムに関する情報が提供されます。

共通のアイコン

次の表に、エンド ユーザ ポータル で使用される共通のアイコンについての情報を示します。アイコンの上にカーソルを合わせると、アイコンの名前を確認できます。一部のアイコンは、使用するコンテキストに応じて名前が異なる場合があります。たとえば、[削除（Delete）] アイコンは、[レポートの削除（Delete Report）] や [スナップショットの削除（Delete Snapshot）] になる場合があります。

アイコン	名前	説明
	検索	検索はヘッダーと個々の画面で使用できます。エンド ユーザ ポータルのレポートを検索するには、ヘッダーで [検索（Search）] をクリックします。レポートの 1 つ以上の項目を検索するには、個々の画面で [検索（Search）] をクリックします。
	アラート（Alert）	アラートはヘッダーで使用できます。診断システム メッセージを表示するには、[アラート（Alert）] をクリックします。

アイコン	名前	説明
	ユーザ（User）	ユーザはヘッダーで使用できます。プロファイルにアクセス、ログアウト、またはエンドユーザ ポータルのクラシック表示にアクセスするには、[ユーザ（User）] をクリックします。
	エクスポート（Export）	エクスポートは個別の画面で使用できます。画面に表示されるレポートの内容をエクスポートするには、[エクスポート（Export）] をクリックします。
	更新（Refresh）	更新は個別の画面で使用できます。画面に表示されるデータを更新するには、[更新（Refresh）] をクリックします。
	詳細の表示（View Details）	詳細の表示は個別の画面で使用できます。テーブル内の選択した行に関する詳細を表示するには、[詳細の表示（View Details）] をクリックします。
	テーブル ビュー	テーブル ビューは、カタログとアプリケーション コンテナに使用できます。カタログおよびアプリケーション コンテナをそれぞれのカタログ項目とアプリケーション コンテナの詳細とともに階層型テーブルに表示するには、[テーブル ビュー（Table View）] をクリックします。このビューでは、利用可能なカタログ項目またはアプリケーション コンテナを表示するには、カタログ項目タイプ フォルダをクリックする必要があります。
	タイル ビュー	タイル ビューは、カタログとアプリケーション コンテナに使用できます。カタログとアプリケーション コンテナをアイコンのタイル ビューで表示するには、[タイル ビュー（Tile View）] をクリックします。このビューでは、カタログ項目またはアプリケーション コンテナの詳細を表示するには、アイコンをクリックする必要があります。
	作成（Create）	作成は個別の画面で使用できます。VMディスクのような新しいオブジェクトを作成するには、[作成（Create）] をクリックします。 このアイコンは、管理者がグループの VDC で適切な [エンド ユーザ セルフサービス（End User Self-Service）] オプションを有効にし、権限を与えている場合にのみ表示されます。

アイコン	名前	説明
	追加（Add）	追加は個別の画面で使用できます。既存のカタログ フォルダにカタログ項目を追加するといった、既存のオブジェクトに項目を追加するには、[追加（Add）] をクリックします。このアイコンの名前には、[カタログの追加（Add Catalog）] のように追加する項目が含まれる場合があります。 このアイコンは、管理者がグループの VDC で適切な [エンド ユーザ セルフサービス（End User Self-Service）] オプションを有効にし、権限を与えている場合にのみ表示されます。
	編集（Edit）	編集は個別の画面で使用できます。カタログ項目または VM ディスクなどの既存のオブジェクトを変更するには、[編集（Edit）] をクリックします。 このアイコンは、管理者がグループの VDC で適切な [エンド ユーザ セルフサービス（End User Self-Service）] オプションを有効にし、権限を与えている場合にのみ表示されます。
	削除（Delete）	削除は個別の画面で使用できます。カタログ項目または VM ディスクなどのオブジェクトを削除するには、[削除（Delete）] をクリックします。 このアイコンは、管理者がグループの VDC で適切な [エンド ユーザ セルフサービス（End User Self-Service）] オプションを有効にし、権限を与えている場合にのみ表示されます。
	カスタム アクション	このアイコンは、関連付けられたアイコンがない追加タスクを表します。

診断リソースの通知

診断リソースの通知アイコンはヘッダー内にあります。このアイコンは、リソースの通知があるときにだけ表示されます。アイコンをクリックすると、アクションに関連するすべての診断リソースの通知と エンド ユーザ ポータル での権限を表示できます。

最新のリソースの通知がリストの先頭に表示されます。このリストから通知を削除することはできません。

診断リソースの通知の形式

次の表に、すべての診断リソースの通知に使用されている形式を示します。

名前	説明
重大度（Severity）	診断リソースの通知の重大度を表すアイコン。重大度の詳細については、診断リソースの通知の重大度，（11 ページ）を参照してください。
カテゴリ（Category）	リソースの通知の原因となった項目または管理対象オブジェクトのカテゴリ。たとえば、次のいずれかが考えられます。 • システム パフォーマンス • システム設定（System Configuration） • クラウド
項目	リソースの通知の原因となった特定の項目または管理対象オブジェクト。特定のアカウントの追加情報が、項目名に含まれている場合があります。
説明	リソースの通知の原因となった問題の説明。たとえば、これでユーザ アカウント、クラウド アカウント、VM またはサーバの問題を説明できます。
推奨事項	リソースの通知の原因となった問題を解決するために推奨される方法。
監査時刻	リソースの通知が作成された日時。

診断リソースの通知の重大度

次の表に、受け取る可能性がある診断リソースの通知の重大度を説明します。

アイコン	重大度	説明
	クリティカル（Critical）	サービスに影響する状態であり、すぐに修正処理が必要です。たとえばこの重大度は、VM またはサーバがダウンしていて、再起動する必要があることを示している場合があります。
	メジャー	サービスに影響する状態であり、できる限り早い修正処理が必要です。たとえばこの重大度は、VM またはサーバに深刻な機能低下があり、完全な機能を復元する必要があることを示している場合があります。
	マイナー	サービスに影響を及ぼさない状態ですが、より深刻な問題を予防するための修正処理が必要です。たとえばこの重大度は、検出された状態が、管理対象オブジェクトの能力を低下させていないことを示している場合があります。

アイコン	重大度	説明
	警告	潜在的に、あるいは近い将来にサービスに影響する状態ですが、現在はシステムに大きな影響を与えていません。必要に応じて、さらに詳しく診断して問題を修正し、サービスに影響を与えるより深刻な問題が発生するのを防ぐ必要があります。
	標準	通知または情報メッセージ。システムの状態や問題を示すものではありません。

第 3 章

ユーザ設定とカスタマイズ

- ユーザ設定とカスタマイズ，13 ページ
- エンド ユーザ ポータル へのログイン，13 ページ
- エンド ユーザ ポータル からのログアウト，14 ページ
- 検索，14 ページ
- ユーザ設定，15 ページ
- ダッシュボード設定，17 ページ
- テーブルと列のカスタマイズ，18 ページ
- レポート データの更新，20 ページ
- レポートからのデータのエクスポート，20 ページ
- サマリー レポートのエクスポート，21 ページ
- クラシック表示への切り替え，21 ページ

ユーザ設定とカスタマイズ

エンド ユーザ ポータル 表示（ランディング ページ、ダッシュボード、テーブル、レポート、操作を含む）は、カスタマイズできます。

エンド ユーザ ポータル へのログイン

ステップ 1　Web ブラウザで、エンド ユーザ ポータル の Web リンクを入力します。

デフォルトの Web リンクは `https://EndUserPortal_IP/app/ui/login.jsp` です。ここで、*EndUserPortal_IP* はエンド ユーザ ポータル に割り当てられている IP アドレスを表します。エンド ユーザ ポータル の IP アドレスがよくわからない場合は、管理者にお問い合わせください。

ステップ 2 起動ページで、ユーザ名とパスワードを入力します。

ステップ 3 [ログイン（Login）] をクリックします。

エンド ユーザ ポータル からのログアウト

ステップ 1 ヘッダーで、[ユーザ（User）] をクリックし、[ログアウト（Log Out）] を選択します。

ステップ 2 確認メッセージで、次のいずれかを選択します。

- ログアウトする場合は [はい、ログアウトします（Yes, Logout）]
- キャンセルしてログインしたままにする場合は [いいえ（No）]

検索

検索はヘッダーと個々の画面で使用できます。検索を行うものによって、使用する必要がある検索フィールドが決まります。

レポートの検索

ヘッダーで検索を使用すると、エンド ユーザ ポータル 内の特定の場所またはレポートに直接移動することができます。たとえば、VM を表示する場合、[検索（Search）] フィールドに VM を入力すると、その場所に移動できます。ただし、ヘッダーで検索を使用して特定の VM を見つけることはできません。

ヘッダーの [検索（Search）] フィールドに用語を入力すると、エンドユーザ ポータル では、推奨される場所またはレポートが提供されます。

項目の検索

エンドユーザ ポータル の関連する場所から項目を検索できます。たとえば、VM レポートで固有の VM を検索できます。

[検索（Search）]フィールドに検索条件を入力すると、一致するエントリがフィルタリングされ、リストされます。一致するエントリの総数は、[合計（Total）] フィールドに表示されます。フィルタ結果にも検索条件が強調表示されます。

（注）
- 検索オプションはページ分けされていないレポートでのみ使用できます。
- カタログを検索する場合、検索結果がフィルタリングされ、タイルまたはリスト ビュー形式でリストされます。

ユーザ設定

使用する言語の設定

エンド ユーザ ポータル のテキストは、選択した言語に基づいて表示されます。

ステップ 1 ヘッダーで、[ユーザ（User）] をクリックし、[プロファイルの編集（Edit My Profile）] を選択します。
ステップ 2 [プロファイルの編集（Edit My Profile）] 画面の [ユーザ プロファイル（User Profile）] 領域で、いずれかのサポートされている言語を選択します。
ステップ 3 [保存（Save）] をクリックし、[閉じる（Close）] をクリックします。
エンド ユーザ ポータル が更新された言語選択で更新されます。

パスワードの変更

ステップ 1 ヘッダーで、[ユーザ（User）] をクリックし、[プロファイルの編集（Edit My Profile）] を選択します。
ステップ 2 [プロファイルの編集（Edit My Profile）] の [パスワード（Password）] 領域で、古いパスワードを入力し、新しいパスワードを入力し、新しいパスワードを確認します。
ステップ 3 [保存（Save）] をクリックします。

アクセス権限の表示

アクセス権限によって、エンド ユーザ ポータル で実行できるタスクが決まります。一部のタスクでは、管理者に該当するエンドユーザセルフサービス権限を付与してもらう必要があります。

ステップ 1 ヘッダーで、[ユーザ（User）] をクリックし、[プロファイルの編集（Edit My Profile）] を選択します。

ステップ 2 [プロファイルの編集（Edit My Profile）] 画面の [アクセス プロファイル（Access Profiles）] の領域に、自分のアクセス レベルとプロファイルがリストされます。

ステップ 3 [自分のプロフィールの表示（Edit My Profile）] 画面を閉じるには、[閉じる（Close）] をクリックするか、または右上隅にある [X] をクリックします。

デフォルトのアクセス プロファイルの変更

管理者が、アクセス レベルと権限が異なる複数のアクセス プロファイルをユーザ プロファイルに割り当てることがあります。エンド ユーザ ポータル にログインするときに使用したデフォルト プロファイルを変更できます。

ステップ 1 ヘッダーで、[ユーザ（User）] をクリックし、[プロファイルの編集（Edit My Profile）] を選択します。

ステップ 2 [プロファイルの編集（Edit My Profile）] 画面の [アクセス プロファイル（Access Profiles）] の領域に、使用可能なアクセス プロファイルがリストされます。

ステップ 3 デフォルト プロファイルとして設定するアクセス プロファイルのラジオ ボタンを選択します。

ステップ 4 [保存（Save）] をクリックします。
[保存（Save）] をクリックすると、次回 エンド ユーザ ポータル に再度ログインしたときに新しいデフォルト プロファイルが適用されます。

ダッシュボード設定

ダッシュボードの有効化と無効化

有効になっているダッシュボードを使用して、ランディングページのサマリーレポートを追加および表示できます。管理者によって有効化されたサマリー ダッシュレットを表示することもできます。ダッシュボードはデフォルトで有効になっています。

ステップ 1 ヘッダーで、[ユーザ（User）] をクリックし、[プロファイルの編集（Edit My Profile）] を選択します。

ステップ 2 [自分のプロフィールの表示（Edit My Profile）] 画面の [ダッシュボード（Dashboard）] 領域で、次のいずれかを実行します。

- ダッシュボードを有効にするには、最上位メニューの [ダッシュボードの有効化（Enable Dashboard）] チェックボックスをクリックし、オンになっていることを確認します。
- ダッシュボードを無効にするには、最上位メニューの [ダッシュボードの有効化（Enable Dashboard）] チェックボックスをクリックし、オフになっていることを確認します。

ステップ 3 [保存（Save）] をクリックします。

ステップ 4 [自分のプロフィールの表示（Edit My Profile）] 画面を閉じるには、[閉じる（Close）] をクリックするか、または右上隅にある [X] をクリックします。
設定を保存して [自分のプロフィールの表示（Edit My Profile）] 画面を閉じると、ダッシュボードが有効または無効になった状態にアプリケーションが更新されます。

カスタム ダッシュボードの作成

カスタム ダッシュボードを作成して、ダッシュボードに 1 つ以上のサマリー レポートを追加できます。カスタム ダッシュボードを作成してサマリー レポートを追加すると、ランディング ページに表示されます。

ステップ 1 ランディング ページで、ダッシュボードの上にある下矢印をクリックします。

ステップ 2 ドロップダウンリストから、[ダッシュボードの作成（Create Dashboard）] を選択します。

ステップ 3 カスタム ダッシュボード名を入力し、[送信（Submit）] をクリックします。
ドロップ ダウンリストにカスタム ダッシュボードが表示されます。

次の作業

サマリー レポートに移動することにより、カスタム ダッシュボードに 1 つ以上のサマリー レポートを追加できます。

ダッシュボードへのサマリー レポートの追加

ダッシュボードに 1 つ以上のサマリー レポートを追加すると、ランディング ページでそれらを表示できます。

ステップ 1 目的のオプションを選び、ダッシュボードに追加するサマリー レポートに移動します。
たとえば、VM に関するサマリー レポートを追加する場合は、[仮想リソース（Virtual Resources）] を選択し、[サマリー（Summary）] をクリックします。

ステップ 2 [サマリー（Summary）] タブで、ダッシュボードに追加するレポートまで下方にスクロールします。

ステップ 3 レポートの右上隅で、[設定（Settings）]、[ダッシュボードに追加（Add to Dashboard）] の順にクリックします。

ダッシュボードからのサマリー レポートの削除

ステップ 1 ランディング ページで、ダッシュボードから削除するサマリー レポートまで下方にスクロールします。

ステップ 2 レポートの右上隅で、[設定（Settings）]、[ビューを閉じる（Close View）] の順にクリックします。
ダッシュボードからレポートを削除したら、ダッシュボードへのサマリー レポートの追加, （18 ページ）の手順に従って、ダッシュボードに戻す必要があります。

テーブルと列のカスタマイズ

テーブル列の構成

エンド ユーザ ポータル のすべてのテーブルに対し、表示する列の選択、テーブルの列の順序の変更、または列によるテーブル エントリの並べ替えができます。

（注） この手順では、すでに構成するテーブルに移動していることを想定しています。

ステップ 1 テーブル内の 1 つ以上の列を表示または非表示にするには、次の手順を実行します。

a) 列ヘッダーの上にカーソルを合わせ、右側に表示されている下矢印をクリックします。

b) ドロップダウン リストから [列（Columns）] を選択します。

c) 表示する列のチェックボックスをオンにし、非表示にする列のチェックボックスをオフにします。

ステップ 2 1 つの列のエントリでテーブルのデータをソートするには、その列見出しをクリックします。
列エントリは、アルファベット順に昇順または降順でソートできます。

テーブル エントリのフィルタリング

[フィルタ（Filter）] アイコンを使用して詳細な条件を追加し、テーブル エントリのリストをフィルタリングします。

（注） この手順では、すでにフィルタリングするテーブルに移動していることを想定しています。

ステップ 1 テーブル列の上部の [フィルタ（Filter）] アイコンをクリックします。
[列内を検索（Search in Column）] フィールドと [テキスト（Text）] フィールドが表示されます。

ステップ 2 [列内を検索（Search in Column）] フィールドで、フィルタリングする値が含まれている列を選択します。

ステップ 3 [テキスト（Text）] フィールドに、表示する値を入力します。

（注） [テキスト（Text）] フィールドに入力する値は、大文字と小文字を区別する必要はありません。

ステップ 4 条件を追加するには、[列フィルタを追加（Add Column Filter）] フィールドをクリックし、ステップ 2 と 3 を繰り返します。

ステップ 5 条件を追加する際に、指定したすべての条件に一致する項目を表示するには [すべての条件に一致（Match All Conditions）] を選択し、指定した条件のいずれかに一致する結果を表示するには [いずれかの条件に一致（Match Any Condition）] を選択します。

ステップ 6 [フィルタ（Filters）] ボタンをクリックします。

ステップ 7 フィルタをクリアしてテーブルのすべてのデータを表示するには、[フィルタ（Filter）] アイコンをもう一度クリックします。

レポート データの更新

エンド ユーザ ポータル のデータは自動的に更新されません。ただし、画面上のすべてのデータはいつでも更新できます。

ステップ 1 希望するオプションを選択し、更新するデータを含むレポートに移動します。
たとえば、VM に関する情報を更新する場合は、[仮想リソース（Virtual Resources）] を選択し、[VM] をクリックします。

ステップ 2 [レポートデータの更新（Refresh Report Data）] をクリックします。

レポートからのデータのエクスポート

任意のレポートからデータをエクスポートできます。

ステップ 1 希望するオプションを選択し、エクスポートするデータを含むレポートに移動します。
たとえば、VM に関する情報をエクスポートする場合は、[仮想リソース（Virtual Resources）] を選択し、[VM] をクリックします。

ステップ 2 [レポートのエクスポート（Export Report）] をクリックします。

ステップ 3 [レポートのエクスポート（Export Report）] 画面で、次のいずれかのレポート形式を選択し、[レポートの生成（Generate Report）] をクリックします。

- PDF
- CSV
- XLS

ステップ 4 レポートが生成されたら、[ダウンロード（Download）] をクリックします。
レポートは、要求された形式で、ブラウザで設定されているダウンロード場所にダウンロードされます。

サマリー レポートのエクスポート

[サマリー（Summary）] 画面で、任意の個別レポートからデータをエクスポートできます。ただし、一度に複数のレポートをエクスポートすることはできません。

ステップ 1 希望するオプションを選択し、エクスポートするサマリー レポートに移動します。
たとえば、VMに関するサマリー レポートをエクスポートする場合は、[仮想リソース（Virtual Resources）] を選択し、[サマリー（Summary）] をクリックします。

ステップ 2 [サマリー（Summary）] 画面で、エクスポートするレポートまで下方にスクロールします。

ステップ 3 [設定（Settings）] をクリックしてから、[エクスポート（Export）] をクリックします。

ステップ 4 [レポートのエクスポート（Export Report）] 画面で、次のいずれかのレポート形式を選択し、[レポートの生成（Generate Report）] をクリックします。

- PDF：グラフ形式でサマリー レポートをエクスポートします。 サマリー レポートの PDF には表形式の個別データ ポイントは含まれていません。
- CSV：サマリー レポートのデータ ポイントをカンマ区切り値としてエクスポートします。
- XLS：サマリー レポートのデータ ポイントをスプレッドシートでエクスポートします。

ステップ 5 レポートが生成されたら、[ダウンロード（Download）] をクリックします。
レポートは、要求された形式で、ブラウザで設定されているダウンロード場所にダウンロードされます。

クラシック表示への切り替え

エンド ユーザ ポータル をクラシック表示に切り替えることができます。クラシック表示は、エンド ユーザ ポータルまたはセルフサービス ポータルの古いバージョンです。

ヘッダーで、[ユーザ（User）] をクリックし、[クラシック表示（Classic View）] を選択します。
クラシック表示は新しいブラウザ タブに表示され、新しいエンドユーザ ポータルの表示は既存のタブに開いたまま残ります。

第 4 章

カタログ

- カタログ，23 ページ
- 標準のカタログ用サービス リクエストの作成，24 ページ
- 詳細なカタログのサービス リクエストの作成，25 ページ
- サービス コンテナ カタログのサービス リクエストの作成，25 ページ
- ベア メタル カタログのサービス リクエストの作成，26 ページ
- 導入可能性アセスメントの実行，26 ページ

カタログ

事前定義されたカタログ項目を使用してインフラストラクチャをプロビジョニングできます。カタログでは、インフラストラクチャをバインドするクラウドの名前およびグループの名前などのパラメータを定義します。管理者は、カスタム フォルダとカタログ項目を作成したり、フォルダまたはカタログを表示できるユーザ グループまたは特定のユーザを指定できます。管理者はまた、カタログ項目を作成する権限を与えることもできます。

次のフォルダはデフォルトで使用可能になっています。それらは編集したり削除したりすることはできません。

- 標準（Standard）
- 詳細設定（Advanced）
- サービス コンテナ（Service Container）
- ベア メタル（Bare Metal）

デフォルトでは、カタログがタイル ビュー形式で表示されます。右上隅でカタログをリスト表示形式に切り替えることができます。

カタログ項目に関する追加の詳細を表示するには、そのカタログ項目がある行をクリックし、[詳細の表示（View Details）] をクリックします。

標準のカタログ用サービス リクエストの作成

標準カタログ項目は、クラウドのリストからのイメージを使用した VM プロビジョニングのためのサービス リクエストの作成などの、汎用サービス リクエストに使用されます。

ステップ 1 [カタログ（Catalogs）] を選択します。

ステップ 2 ナビゲーション ペインで、[標準（Standard）] を選択します。

ステップ 3 サービス リクエストを作成するカタログ項目を選択し、[リクエストの作成（Create Request）] をクリックします。

ステップ 4 [カタログの選択（Catalog Selection）] 画面で、次の必須フィールドに値を入力します

a) [グループ（Group）] または [ユーザ（User）] のラジオボタンを選択して、グループまたはユーザのセットに対して VM をプロビジョニングするかどうかを指定します。
[ユーザ（User）] ラジオボタンを選択すると、VM 所有権、VM アクセス権限、および VM 管理権限を持つユーザを選択できます。

b) [導入アセスメントの実行（Perform deployment assessment）] をオンにして、サービス リクエストを作成する前に VM 導入のアセスメントを実行します。

ステップ 5 [次へ（Next）] をクリックします。

ステップ 6 [導入設定（Deployment Configuration）] 画面で、次の必須フィールドに値を入力します

a) [プロビジョン（Provision）] ドロップダウン リストから、VM をプロビジョニングするタイミングを選択します。
[今すぐ（Now）] を選択すると、VM はすぐにプロビジョニングされます。[後で（Later）] を選択すると、カレンダーと時刻のドロップダウン リストが表示されます。

b) [リース タイム（Lease Time）] をオンにして、指定した VM のリース時間を日と時間で設定します。

c) [請求期間（Charge Duration）] ドロップダウン リストから、デフォルト コストが計算される期間を選択します。
デフォルトでは、この期間は [毎月（Monthly）] に設定されています。選択した期間に応じて、期間を日数、月数、時間単位で指定できます。

ステップ 7 [次へ（Next）] をクリックします。

ステップ 8 [カスタム仕様（Custom Specification）] 画面で、CPU コアとメモリを指定し、[次へ（Next）] をクリックします。

ステップ 9 該当する場合は、[カスタム ワークフロー（Custom Workflow）] 画面で必須フィールドに値を入力し、[次へ（Next）] をクリックします。
管理者が VM プロビジョニング用に選択したカタログのプロビジョニング後のカスタム アクションを有効にした場合、カスタム ワークフロー入力が適用されます。プロビジョニング後のワークフローには、カタログに添付されたワークフローに依存するカスタム入力が含まれます。

ステップ 10 [概要（Summary）] 画面で、サービス リクエストの情報を確認します。

ステップ 11 [送信（Submit）] をクリックします。

詳細なカタログのサービス リクエストの作成

詳細カタログ項目は、オーケストレーション ワークフローの実行に使用されます。管理者によってプロビジョニングされたワークフロー カタログ項目を実行できます。

ステップ 1 [カタログ（Catalogs）] を選択します。

ステップ 2 ナビゲーション ペインで、[詳細（Advanced）] を選択します。

ステップ 3 サービス リクエストを作成するカタログ項目を選択し、[リクエストの作成（Create Request）] をクリックします。

ステップ 4 [カタログの選択（Catalog Selection）] 画面で、オプションの電子メール アドレスを [サービス リクエストのサポート用電子メール（Service Request Support Email）] フィールドに入力し、[次へ（Next）] をクリックします。

ステップ 5 該当する場合は、[カスタム ワークフロー（Custom Workflow）] 画面で必須フィールドに値を入力し、[次へ（Next）] をクリックします。
管理者が VM プロビジョニング用に選択したカタログのプロビジョニング後のカスタム アクションを有効にした場合、カスタム ワークフロー入力が適用されます。プロビジョニング後のワークフローでは、カタログに添付されたワークフローに依存するカスタム入力を指定できます。

ステップ 6 [概要（Summary）] 画面で、サービス リクエストの情報を確認します。

ステップ 7 [送信（Submit）] をクリックします。

サービス コンテナ カタログのサービス リクエストの作成

サービス コンテナ カタログ項目は、アプリケーション コンテナの VM プロビジョニングに使用されます。

ステップ 1 [カタログ（Catalogs）] を選択します。

ステップ 2 ナビゲーション ペインで、[サービス コンテナ（Service Container）] を選択します。

ステップ 3 サービス リクエストを作成するカタログ項目を選択し、[リクエストの作成（Create Request）] をクリックします。

ステップ 4 [カタログ選択（Catalog Selection）] 画面で [次へ（Next）] をクリックします。

ステップ 5 [導入設定（Deployment Configuration）] 画面で、次の必須フィールドに値を入力します。

a) [プロビジョン（Provision）] ドロップダウン リストから、VM をプロビジョニングするタイミングを選択します。
[今すぐ（Now）] を選択すると、VM はすぐにプロビジョニングされます。[後で（Later）] を選択すると、カレンダーと時刻のドロップダウン リストが表示されます。

b) [サービス コンテナ名（Service Container Name）] フィールドに、サービス コンテナの名前を入力します。

ステップ 6 [次へ（Next）] をクリックします。

ステップ 7 [概要（Summary）] 画面で、サービス リクエストの情報を確認します。

ステップ 8 [送信（Submit）] をクリックします。

ベア メタル カタログのサービス リクエストの作成

ベア メタル カタログ項目は、ベア メタル サーバのワークフロー実行に使用されます。管理者によって定義されたベア メタル サーバのプロビジョニング ポリシーを使用してカタログ項目を実行できます。

ステップ 1 [カタログ（Catalogs）] を選択します。

ステップ 2 ナビゲーション ペインで、[ベア メタル（Bare Metal）] を選択します。

ステップ 3 サービス リクエストを作成するカタログ項目を選択し、[リクエストの作成（Create Request）] をクリックします。

ステップ 4 [カタログ選択（Catalog Selection）] 画面で [次へ（Next）] をクリックします。

ステップ 5 [カスタム ワークフロー（Custom Workflow）] 画面で、該当する場合は必須フィールドに入力し、[次へ（Next）] をクリックします。
管理者がベア メタル サーバのプロビジョニング用に選択したカタログのプロビジョニング後のカスタム アクションを有効にした場合、カスタム ワークフロー入力が適用されます。プロビジョニング後のワークフローでは、カタログに添付されたワークフローに依存するカスタム入力を指定できます。

ステップ 6 [概要（Summary）] 画面で、サービス リクエストの情報を確認します。

ステップ 7 [送信（Submit）] をクリックします。

導入可能性アセスメントの実行

標準カタログ項目に対して導入可能性アセスメントを実行することで、導入可能なホストを評価できます。レポートには、ホストが導入可能かどうかが表示され、除外の理由が一覧表示されま

す。設定されたすべての VDC または選択した VDC について導入可能性アセスメント レポートを作成できます。

はじめる前に

このアクションを実行するには、所属しているロールに対して、管理者が [導入可能性アセスメントの許可（Allow Deployability Assessment）] 権限を有効化している必要があります。

ステップ 1 [カタログ（Catalogs）] を選択します。

ステップ 2 導入可能性アセスメントを実行する標準カタログ項目を選択し、[導入可能性アセスメント（Deployability Assessment）] をクリックします。

ステップ 3 [vDC の選択（Select vDC）] 画面で、次のいずれかを実行します。

- [すべてのVDCでアセスメントを実行する（Run Assessment Across all VDCs）] チェック ボックスをオンにします。
- [すべての VDC でアセスメントを実行する（Run Assessment Across all VDCs）] チェック ボックスをオフにし、導入可能性アセスメント レポートに含める VDCS にマークを付けます。

ステップ 4 [送信（Submit）] をクリックします。

第 5 章

サービス

- サービス，29 ページ
- サービス リクエスト，29 ページ
- ユーザ OVF 管理，37 ページ
- ダウンロード，39 ページ

サービス

サービス リクエスト、OVF ファイル、ダウンロードの表示と管理ができます。OVF ファイルとダウンロードは、管理者によって提供されます。デフォルトでは、[サービス（Services）]メニューオプションは、すべてのサービス リクエストとそのステータスを表示します。

サービス リクエスト

仮想マシン（VM）、サービス、またはアプリケーションをプロビジョニングするためのサービス リクエストを作成できます。サービス リクエスト プロセスでは VM 作成用のプロビジョニング ワークフローを作成しますが、これには次のアクションが含まれます。

- 予算の検証
- 動的なリソース割り当て
- 承認
- プロビジョニング
- ライフサイクルの設定および通知

管理者は、カタログ項目としてオーケストレーション ワークフローを提供できます。VM をプロビジョニングする、またはオーケストレーション ワークフローを実行するには、最初にサービス リクエストを作成する必要があります。管理者または指名された承認者がサービス リクエストを

承認すると、VM がプロビジョニングされます。VM はただちに承認することも、オリジナルのリクエストから 90 日以内に承認するようにスケジュールすることもできます。サービス リクエスト レポートを表示するには、[サービス（Services）] の下で [サービス リクエスト（Service Requests）] を選択します。

サービス リクエスト レポートの画面には、すべてのサービス リクエストに加え、次の情報が表示されます。

- サービス リクエスト ID
- 要求タイプ（Request Type）
- 送信ユーザ
- グループ
- カタログ名またはワークフロー名
- イニシエータのコメント
- リクエスト日時
- リクエストのステータス
- ロールバックのタイプ

サービス リクエストに関する追加情報を表示するには、そのサービス リクエストがある行をクリックし、[詳細の表示（View Details）] をクリックします。

標準のカタログ用サービス リクエストの作成

標準カタログ項目は、クラウドのリストからのイメージを使用した VM プロビジョニングのためのサービス リクエストの作成などの、汎用サービス リクエストに使用されます。

ステップ 1 [サービス（Services）] を選択します。

ステップ 2 [サービス（Services）] ページで、[サービス リクエスト（Service Requests）] をクリックします。

ステップ 3 [リクエストの作成（Create Request）] をクリックします。

ステップ 4 [リクエストの作成（Create Request）] 画面で、[カタログのタイプ（Catalog Type）] ドロップダウン リストから [標準（Standard）] を選択します。

ステップ 5 [送信（Submit）] をクリックします。

ステップ 6 [カタログの選択（Catalog Selection）] 画面で、次の必須フィールドに値を入力します

a) [グループ（Group）] または [ユーザ（User）] のラジオボタンを選択して、グループまたはユーザのセットに対して VM をプロビジョニングするかどうかを指定します。
[ユーザ（User）] ラジオボタンを選択すると、VM 所有権、VM アクセス権限、および VM 管理権限を持つユーザを選択できます。

b) [カタログの選択（Select Catalog）] ドロップダウン リストからカタログを選択します。

c) [導入アセスメントの実行（Perform deployment assessment）] をオンにして、サービス リクエストを作成する前に VM 導入のアセスメントを実行します。

ステップ 7 [次へ（Next）] をクリックします。

ステップ 8 [導入設定（Deployment Configuration）] 画面で、次の必須フィールドに値を入力します

a) [プロビジョン（Provision）] ドロップダウン リストから、VM をプロビジョニングするタイミングを選択します。
[今すぐ（Now）] を選択すると、VM はすぐにプロビジョニングされます。[後で（Later）] を選択すると、カレンダーと時刻のドロップダウン リストが表示されます。

b) [リース タイム（Lease Time）] をオンにして、指定した VM のリース時間を日と時間で設定します。

c) [請求期間（Charge Duration）] ドロップダウン リストから、デフォルト コストが計算される期間を選択します。
デフォルトでは、この期間は [毎月（Monthly）] に設定されています。選択した期間に応じて、期間を日数、月数、時間単位で指定できます。

ステップ 9 [次へ（Next）] をクリックします。

ステップ 10 [カスタム仕様（Custom Specification）] 画面で、CPU コアとメモリを指定し、[次へ（Next）] をクリックします。

ステップ 11 該当する場合は、[カスタム ワークフロー（Custom Workflow）] 画面で必須フィールドに値を入力し、[次へ（Next）] をクリックします。
管理者が VM プロビジョニング用に選択したカタログのプロビジョニング後のカスタム アクションを有効にした場合、カスタム ワークフロー入力が適用されます。プロビジョニング後のワークフローには、カタログに添付されたワークフローに依存するカスタム入力が含まれます。

ステップ 12 [概要（Summary）] 画面で、サービス リクエストの情報を確認します。

ステップ 13 [送信（Submit）] をクリックします。

詳細なカタログのサービス リクエストの作成

はじめる前に

詳細カタログ項目は、オーケストレーション ワークフローの実行に使用されます。管理者によってプロビジョニングされたワークフロー カタログ項目を実行できます。

ステップ 1 [サービス（Services）] を選択します。

ステップ 2 [サービス（Services）] ページで、[サービス リクエスト（Service Requests）] をクリックします。

ステップ 3 [リクエストの作成（Create Request）] をクリックします。

ステップ 4 [リクエストの作成（Create Request）] 画面で、[カタログのタイプ（Catalog Type）] ドロップダウン リストから [詳細（Advanced）] を選択します。

ステップ 5 [送信（Submit）] をクリックします。

ステップ 6 [カタログの選択（Catalog Selection）] 画面で、[カタログの選択（Select Catalog）] ドロップダウン リストからカタログを選択し、[次へ（Next）] をクリックします。

ステップ 7 該当する場合は、[カスタム ワークフロー（Custom Workflow）] 画面で必須フィールドに値を入力し、[次へ（Next）] をクリックします。
管理者が VM プロビジョニング用に選択したカタログのプロビジョニング後のカスタム アクションを有効にした場合、カスタム ワークフロー入力が適用されます。プロビジョニング後のワークフローでは、カタログに添付されたワークフローに依存するカスタム入力を指定できます。

ステップ 8 [概要（Summary）] 画面で、サービス リクエストの情報を確認します。

ステップ 9 [送信（Submit）] をクリックします。

サービス コンテナ カタログのサービス リクエストの作成

サービス コンテナのカタログ項目は、アプリケーション コンテナの VM プロビジョニングに使用されます。

ステップ 1 [サービス（Services）] を選択します。

ステップ 2 [サービス（Services）] ページで、[サービス リクエスト（Service Requests）] をクリックします。

ステップ 3 [リクエストの作成（Create Request）] をクリックします。

ステップ 4 [リクエストの作成（Create Request）] 画面で、[カタログのタイプ（Catalog Type）] ドロップダウン リストから [サービス コンテナ（Service Container）] を選択します。

ステップ 5 [送信（Submit）] をクリックします。

ステップ 6 [カタログの選択（Catalog Selection）] 画面で、[カタログの選択（Select Catalog）] ドロップダウン リストからカタログを選択し、[次へ（Next）] をクリックします。

ステップ 7 [導入設定（Deployment Configuration）] 画面で、次の必須フィールドに値を入力します

a) [プロビジョン（Provision）] ドロップダウン リストから、VM をプロビジョニングするタイミングを選択します。
[今すぐ（Now）] を選択すると、VM はすぐにプロビジョニングされます。[後で（Later）] を選択すると、カレンダーと時刻のドロップダウン リストが表示されます。

b) [サービス コンテナ名（Service Container Name）] フィールドに、サービス コンテナの名前を入力します。

ステップ 8 [次へ（Next）] をクリックします。

ステップ 9 [概要（Summary）] 画面で、サービス リクエストの情報を確認します。

ステップ 10 [送信（Submit）] をクリックします。

ベア メタル カタログのサービス リクエストの作成

ベア メタル カタログ項目は、ベア メタル サーバのワークフロー実行に使用されます。管理者が定義したベア メタル サーバのプロビジョニング ポリシーを使用してカタログ項目を実行できます。

ステップ 1 [サービス（Services）] を選択します。

ステップ 2 [サービス（Services）] ページで、[サービス リクエスト（Service Requests）] をクリックします。

ステップ 3 [リクエストの作成（Create Request）] をクリックします。

ステップ 4 [リクエストの作成（Create Request）] 画面で、[カタログのタイプ（Catalog Type）] ドロップダウン リストから [ベア メタル（Bare Metal）] を選択します。

ステップ 5 [送信（Submit）] をクリックします。

ステップ 6 [カタログの選択（Catalog Selection）] 画面で、[カタログの選択（Select Catalog）] ドロップダウン リストからカタログを選択し、[次へ（Next）] をクリックします。

ステップ 7 該当する場合は、[カスタム ワークフロー（Custom Workflow）] 画面で必須フィールドに値を入力し、[次へ（Next）] をクリックします。
管理者がベア メタル サーバのプロビジョニング用に選択したカタログのプロビジョニング後のカスタム アクションを有効にした場合、カスタム ワークフロー入力が適用されます。プロビジョニング後のワークフローでは、カタログに添付されたワークフローに依存するカスタム入力を指定できます。

ステップ 8 [概要（Summary）] 画面で、サービス リクエストの情報を確認します。

ステップ 9 [送信（Submit）] をクリックします。

サービス リクエストのキャンセル

保留中または承認済みのサービス リクエストをキャンセルできます。リクエストをキャンセルすると、そのリクエストは拒否され承認リストから削除されます。この場合、保留中の承認ワークフローは承認タスクで失敗状態になって停止します。承認済みのサービス リクエストをキャンセルし、後で再送信できます。以前に承認された、キャンセル済みのリクエストに対しサービス リクエストを再送信すると、ワークフローは承認タスクから開始されます。

ステップ 1 [サービス（Services）] を選択します。

ステップ 2 [サービス（Services）] ページで、[サービス リクエスト（Service Requests）] をクリックします。

ステップ 3 キャンセルするサービス リクエストを含む行をクリックします。

ステップ 4 [キャンセル（Cancel）] をクリックします。

ステップ 5 [サービス リクエストのキャンセル（Cancel Service Request）] 画面で、[送信（Submit）] をクリックします。

サービス リクエストが [承認（Approvals）] ページから削除されます。[サービス リクエスト（Service Requests）] ページで、サービス リクエストの [リクエスト ステータス（Request Status）] が [キャンセル済み（Canceled）] に変わります。

サービス リクエストの再送信

拒否されたか失敗したサービスリクエストを再送信できます。サービスリクエストは、次に示す理由で失敗することがあります。

- VM がプロビジョニングされるグループの予算制限（管理者が定義している場合）を超過した。
- VMがプロビジョニングされるグループに対するリソース制限（管理者が定義している場合）を超過した。
- サービス リクエストの作成時に関連情報が入力されないと、プロビジョニングが失敗する可能性があります。

サービスリクエストが再送信されると、サービスリクエストを開始するワークフローのタスクを選択できます。たとえば、リソース割り当てワークフローでサービス リクエストが失敗した場合、この手順から開始するようにサービス リクエストを再送信できます。

ステップ 1 [サービス（Services）] を選択します。

ステップ 2 [サービス（Services）] ページで、[サービス リクエスト（Service Requests）] をクリックします。

ステップ 3 再送信するサービス リクエストを含む行をクリックします。

ステップ 4 [リクエストの再送信（Resubmit Request）] をクリックします。

ステップ 5 [サービス リクエストの再送信（Resubmit Service Request）] 画面で、サービス リクエストを開始するタスクを [再送信手順（Resubmit Step）] ドロップダウン リストから選択します。

ステップ 6 [送信（Submit）] をクリックします。
[承認（Approvals）] ページで、サービス リクエストの [マイ承認ステータス（My Approval Status）] が [保留中（Pending）] に変わります。

次の作業

[承認（Approvals）] ページで、サービス リクエストを選択して承認します。

サービス リクエストのアーカイブ

サービス リクエストをアーカイブして、後から使用できます。サービス リクエストをアーカイブした場合、それを元に戻すには管理者に連絡してください。

ステップ 1 [サービス（Services）] を選択します。
ステップ 2 [サービス（Services）] ページで、[サービス リクエスト（Service Requests）] をクリックします。
ステップ 3 アーカイブするサービス リクエストを含む行をクリックします。
ステップ 4 [アーカイブ（Archive）] をクリックします。
ステップ 5 [リクエストのアーカイブ（Archive Request）] 画面で、[アーカイブ（Archive）] をクリックします。

サービス リクエストへのメモの追加

サービス リクエストにメモを追加して、自分自身、要求者、または他の承認者に情報を提供することができます。

ステップ 1 [サービス（Services）] を選択します。
ステップ 2 [サービス（Services）] ページで、[サービス リクエスト（Service Requests）] をクリックします。
ステップ 3 メモを追加するサービス リクエストを含む行をクリックします。
ステップ 4 [メモの追加（Add Notes）] をクリックします。
ステップ 5 [メモの追加（Add Notes）] 画面で、[メモ（Notes）] フィールドに必要な情報を追加します。
ステップ 6 [送信（Submit）] をクリックします。

サービス リクエストのロールバック

サービス リクエストをロールバックし、実行されたワークフローのすべてまたは一部を元に戻すことができます。正常に実行されたタスクをロールバックできます。次のような例外があります。

- 一部のタスクは、ロールバックできないように設計されています。
- 特定のワークフロー内のタスクに対してロールバックを無効にすることができます。

ロールバック対象として選択されていないタスクによって実行された変更は取り消せません。たとえば、仮想リソースを作成するタスクが選択されていない場合、サービス リクエストがロールバックされても仮想リソースは削除されません。成功したサービス リクエスト全体をロールバッ

クする場合、無効なものを除き、そのサービス リクエストのワークフローに含まれるすべてのタスクがロールバックされます。

ステップ 1 [サービス（Services）] を選択します。

ステップ 2 [サービス（Services）] ページで、[サービス リクエスト（Service Requests）] をクリックします。

ステップ 3 ロールバックするサービス リクエストを含む行をクリックします。

ステップ 4 [その他のアクション（More Actions）] ドロップダウン リストから [リクエストのロールバック（Rollback Request）] を選択します。

ステップ 5 [サービス リクエストのロールバック（Rollback Service Request）] 画面で、ロールバックするタスクにチェックが付いていることを確認します。
デフォルトでは、すべてのタスクにチェックが付きます。

ステップ 6 [送信（Submit）] をクリックします。
[承認（Approvals）] ページで、サービス リクエストの [承認ステータス（Approval Status）] が [保留中（Pending）] に変わります。

次の作業

[承認（Approvals）] ページで、サービス リクエストを選択して承認します。

ユーザ OVF 管理

オープン仮想化フォーマット（OVF）ファイルを管理し、グループまたは顧客組織に展開できます。OVF ファイルは、OVA 形式、zip 形式、jar 形式にすることができます。ユーザ OVF 管理レポートを表示するには、[サービス（Services）] の下で [ユーザ OVF 管理（User OVF Management）] を選択します。

ユーザ OVF 管理レポートには、使用可能なすべての OVF ファイルに加えて、次の情報が表示されます。

- ファイル名
- 説明
- 追加日時
- フォルダ タイプ
- ユーザ ID（User ID）

OVA ファイルのアップロード

定義済みの保存場所に OVF ファイルとイメージ ファイル（OVA、zip、および jar 形式）をアップロードできます。

ステップ 1 [サービス（Services）] を選択します。
ステップ 2 [サービス（Services）] ページで、[ユーザ OVF 管理（User OVF Management）] をクリックします。
ステップ 3 [ファイルのアップロード] をクリックします。
ステップ 4 [ファイルのアップロード（Upload File）] 画面で、必須フィールドに値を入力します。
ファイルを選択するか、[OVF ファイル（OVF file）] フィールドにファイルをドラッグ アンド ドロップします。
ステップ 5 [送信（Submit）] をクリックします。

OVA ファイルの破棄

OVF およびイメージ ファイル（OVA、zip、および jar 形式）を、グループまたはお客様の組織に導入できます。

（注） OVF およびイメージ ファイルのアップロードには、ファイル サイズの少なくとも 2 倍のディスク領域が必要です。

ステップ 1 [サービス（Services）] を選択します。
ステップ 2 [サービス（Services）] ページで、[ユーザ OVF 管理（User OVF Management）] をクリックします。
ステップ 3 展開する OVF ファイルが含まれる行をクリックします。
ステップ 4 [展開（Deploy）] をクリックします。
ステップ 5 [OVF の展開（Deploy OVF）] 画面で、必須フィールドに値を入力します。
ステップ 6 [送信（Submit）] をクリックします。

ダウンロード

管理者は、ダウンロードするファイルを提供することができます。ダウンロードにはバイナリファイルおよび実行可能ファイルを含めることができます。ダウンロード レポートを表示するには、[サービス（Services）] の下で [ダウンロード（Downloads）] を選択します。

ダウンロード レポートには、利用可能なすべてのダウンロードに加えて、次の情報が表示されます。

- 名前
- 説明
- ファイル名

ファイルのダウンロード

管理者によって提供されたファイルをダウンロードできます。

はじめる前に

ブラウザのポップアップ ブロッカーを無効にします。

ステップ 1 [サービス（Services）] を選択します。
ステップ 2 [サービス（Services）] ページで、[ダウンロード（Downloads）] をクリックします。
ステップ 3 ダウンロードするファイルの行をクリックします。
ステップ 4 [ダウンロード（Download）] をクリックします。

第 6 章

承認

- 承認，41 ページ
- サービス リクエストの承認，42 ページ
- サービス リクエストの拒否，43 ページ
- サービス リクエストのキャンセル，43 ページ
- サービス リクエストの再送信，44 ページ
- サービス リクエストのアーカイブ，45 ページ
- サービス リクエストへのメモの追加，45 ページ
- サービス リクエストのロールバック，45 ページ

承認

スーパーバイザまたはマネージャによる電子メールでの承認を、エンドユーザによるインフラストラクチャ プロビジョニング要求のポリシーとして設定できます。管理者は承認によって、インフラストラクチャを自動プロビジョニングしながら、スーパーバイザに可視性を提供し、ビジネス ポリシーに適合するためにたびたび必要となる例外を管理することができます。管理者は、2 つの認証グループ（第 1 と第 2）を定義できます。第 1 承認者または第 2 承認者は、第 1 レベルまたは第 2 レベルでサービス リクエストを承認する必要があります。管理者は、すべてのユーザからの承認が必要かどうかも指定できます。サービス リクエストが作成されると、承認者にサービス リクエスト通知の電子メールが送信されます。承認を必要とするすべてのリクエスト、または第 1 承認者または第 2 承認者からの承認が保留されているサービス リクエストは、[承認（Approvals）] 画面で確認できます。サービス リクエストが承認されると、次のステップ、インフラストラクチャのプロビジョニングが開始されます。

[承認（Approvals）] 画面には、承認済み、保留中、および拒否されたすべてのサービス リクエストと、サービス リクエストごとに次の情報が表示されます。

- サービス リクエスト ID

- 要求タイプ（Request Type）
- 送信ユーザ
- グループ
- カタログ名
- イニシエータのコメント
- リクエスト日時
- My コメント
- 承認記録ステータス

サービス リクエストに関する追加の詳細を表示するには、そのサービス リクエストがある行をクリックし、[詳細の表示（View Details）] をクリックします。

サービス リクエストの承認

VDC の承認者として割り当てられている場合、承認が必要な保留中のサービス リクエストが [承認（Approvals）] 画面に表示されます。

ステップ 1 [承認（Approvals）] を選択します。

ステップ 2 承認する保留中のサービス リクエストを含む行をクリックします。

ステップ 3 [承認（Approve）] をクリックします。

ステップ 4 [サービス リクエスト（Service Request）] 画面で、[コメント（Comment）] フィールドに必要なコメントを追加します。

ステップ 5 [承認（Approve）] をクリックします。
サービス リクエストが完了すると、[承認（Approvals）] ページで、サービス リクエストの [承認ステータス（Approval Status）] が [承認済み（Approved）] に変わります。

サービス リクエストの拒否

認証リストの保留中のサービス リクエストを拒否することでその要求が拒否され、要求が拒否されたことが認証リストに表示されます。

ステップ 1 [承認（Approvals）] を選択します。

ステップ 2 拒否する保留中のサービス リクエストの行をクリックします。

ステップ 3 [却下（Reject）] をクリックします。

ステップ 4 [**サービス リクエスト（Service Request）] 画面**で、[コメント（Comment）] フィールドに必要なコメントを追加します。

ステップ 5 [却下（Reject）] をクリックします。
[承認（Approvals）] ページで、サービス リクエストの [承認ステータス（Approval Status）] が [拒否（Rejected）] に変わります。[サービス リクエスト(Service Requests）] ページで、サービス リクエストの [リクエスト ステータス（Request Status）] が [失敗（Failed）]に変わります。

サービス リクエストのキャンセル

保留中または承認済みのサービス リクエストをキャンセルできます。リクエストをキャンセルすると、そのリクエストは拒否され承認リストから削除されます。この場合、保留中の承認ワークフローは承認タスクで失敗状態になって停止します。承認済みのサービス リクエストをキャンセルし、後で再送信できます。以前に承認された、キャンセル済みのリクエストに対しサービス リクエストを再送信すると、ワークフローは承認タスクから開始されます。

ステップ 1 [承認（Approvals）] を選択します。

ステップ 2 キャンセルするサービス リクエストを含む行をクリックします。

ステップ 3 [キャンセル（Cancel）] をクリックします。

ステップ 4 [送信（Submit）] をクリックします。
サービス リクエストが [承認（Approvals）] ページから削除されます。[サービス リクエスト（Service Requests）] ページで、サービス リクエストの [リクエスト ステータス（Request Status）] が [キャンセル済み（Canceled）] に変わります。

サービス リクエストの再送信

拒否されたか失敗したサービスリクエストを再送信できます。サービスリクエストは、次に示す理由で失敗することがあります。

- VM がプロビジョニングされるグループの予算制限（管理者が定義している場合）を超過した。
- VMがプロビジョニングされるグループに対するリソース制限（管理者が定義している場合）を超過した。
- サービス リクエストの作成時に関連情報が入力されないと、プロビジョニングが失敗する可能性があります。

サービスリクエストが再送信されると、サービスリクエストを開始するワークフローのタスクを選択できます。たとえば、リソース割り当てワークフローでサービス リクエストが失敗した場合、この手順から開始するようにサービス リクエストを再送信できます。

ステップ 1 [承認（Approvals）] を選択します。

ステップ 2 再送信するサービス リクエストを含む行をクリックします。

ステップ 3 [リクエストの再送信（Resubmit Request）] をクリックします。

ステップ 4 [サービス リクエストの再送信（Resubmit Service Request）] 画面で、サービス リクエストを開始するタスクを [再送信手順（Resubmit Step）] ドロップダウン リストから選択します。

ステップ 5 [送信（Submit）] をクリックします。
[承認（Approvals）] ページで、サービス リクエストの [マイ承認ステータス（My Approval Status）] が [保留中（Pending）] に変わります。

次の作業

[承認（Approvals）] ページで、サービス リクエストを選択して承認します。

サービス リクエストのアーカイブ

サービスリクエストをアーカイブして、後から使用できます。サービスリクエストをアーカイブすると、承認リストから削除されます。サービス リクエストをアーカイブした場合、それを元に戻すには管理者に連絡してください。

ステップ 1 [承認（Approvals）] を選択します。
ステップ 2 アーカイブするサービス リクエストを含む行をクリックします。
ステップ 3 [アーカイブ（Archive）] をクリックします。
ステップ 4 [リクエストのアーカイブ（Archive Request）] 画面で、[アーカイブ（Archive）] をクリックします。
サービス リクエストが [承認（Approvals）] ページから削除されます。

サービス リクエストへのメモの追加

サービス リクエストにメモを追加して、自分自身、要求者、または他の承認者に情報を提供することができます。

ステップ 1 [承認（Approvals）] を選択します。
ステップ 2 メモを追加するサービス リクエストを含む行をクリックします。
ステップ 3 [メモの追加（Add Notes）] をクリックします。
ステップ 4 [メモの追加（Add Notes）] 画面で、[メモ（Notes）] フィールドに必要な情報を追加します。
ステップ 5 [送信（Submit）] をクリックします。

サービス リクエストのロールバック

サービス リクエストをロールバックし、実行されたワークフローのすべてまたは一部を元に戻すことができます。正常に実行されたタスクをロールバックできます。次のような例外があります。

- 一部のタスクは、ロールバックできないように設計されています。
- 特定のワークフロー内のタスクに対してロールバックを無効にすることができます。

ロールバック対象として選択されていないタスクによって実行された変更は取り消せません。たとえば、仮想リソースを作成するタスクが選択されていない場合、サービス リクエストがロール

バックされても仮想リソースは削除されません。成功したサービス リクエスト全体をロールバックする場合、無効なものを除き、そのサービス リクエストのワークフローに含まれるすべてのタスクがロールバックされます。

ステップ 1 [承認（Approvals）] を選択します。

ステップ 2 ロールバックするサービス リクエストを含む行をクリックします。

ステップ 3 [リクエストのロールバック（Rollback Request）] をクリックします。

ステップ 4 [サービス リクエストのロールバック（Rollback Service Request）] 画面で、ロールバックするタスクにチェックが付いていることを確認します。
デフォルトでは、すべてのタスクにチェックが付きます。

ステップ 5 [送信（Submit）] をクリックします。
[承認（Approvals）] ページで、サービス リクエストの [承認ステータス（Approval Status）] が [保留中（Pending）] に変わります。

次の作業

[承認（Approvals）] ページで、サービス リクエストを選択して承認します。

第 7 章

組織

- 組織，47 ページ
- リソース制限，47 ページ
- OS 使用状況，48 ページ

組織

[組織（Organization）] メニュー オプションは、ユーザのグループまたは単一ユーザのリソース、リソース制限、および OS の使用状況に関するサマリー情報を提供します。

[サマリー（Summary）] 画面では、表示またはエクスポートするレポートを設定できます。次のデータを含む日単位、時間単位、週単位、または月単位のサマリー レポートを表示できます。

- アクティブな VM と非アクティブな VM
- 統合されたリソースの使用率の傾向
- 組織の概要

リソース制限

リソース制限レポートには、ユーザ グループのインフラストラクチャ リソースで割り当てられた制限に関する次の情報が表示されます。

- リソース名
- 制限値
- 現在の使用状況（Current Usage）
- 保留中の SR の使用
- ステータス

管理者は、ユーザ グループごとにリソース制限を割り当てます。リソース制限は、仮想リソース、オペレーティング システム リソース、物理リソースに対して指定することができます。ユーザ グループのリソース制限を表示するには、[組織（Organization）] の下で [リソース制限（Resource Limits）] を選択します。

OS 使用状況

OS 使用状況レポートには、ユーザ グループのオペレーティング システム（OS）の使用状況の詳細が表示されます。OS の名前と OS の現在の使用状況を表示するには、[組織（Organization）] の下で [OS 使用状況（OS Usage）] を選択します。

第 8 章

仮想リソース

- 仮想リソース，49 ページ
- VDC，50 ページ
- アプリケーション コンテナ，50 ページ
- VM，57 ページ
- VM アクション リクエスト，59 ページ
- イメージ，59 ページ
- リソース プール，61 ページ

仮想リソース

[仮想リソース（Virtual Resources）] メニュー オプションは、仮想リソースとカスタマイズ可能なレポートのサマリーを表示します。サマリー ページには、すべての VDC と VM の概要、新しい VM と削除された VM のレポート、およびネットワーク使用率、CPU 使用率、メモリ使用率、ディスク使用率の傾向分析レポートが表示されます。

次の仮想リソースの表示または管理ができます。

- VDC
- アプリケーション コンテナ
- VM
- VM アクション リクエスト
- イメージ（Images）
- ポート グループ
- DV ポート グループ
- リソース プール

- データ ストア
- データストア クラスタ

VDC

VMのプロビジョニング時に、VMと仮想データセンター（VDC）を関連付けることができます。サービス リクエストを作成するときに、VM をプロビジョニングする VDC を選択できます。VM をプロビジョニングするときに、グループに使用できる VDC のリストを表示して、必要な VDC を選択できます。

使用可能な VDC とその詳細を表示するには、[仮想リソース（Virtual Resources）] の下で [vDC] を選択します。

VDC レポートには、使用可能なすべての VDC に加えて、次の情報が表示されます。

- クラウド
- vDC
- タイプ（Type）
- ロック状態
- VM の総数
- アクティブな VM
- カスタム カテゴリ
- ステータス
- タグ

VDC に関する追加の詳細を表示するには、その VDC がある行をクリックし、[詳細の表示（View Details）] をクリックします。

アプリケーション コンテナ

アプリケーション コンテナは、エンドユーザに対するアプリケーションのプロビジョニングにテンプレートを利用するアプローチです。各アプリケーション コンテナは、VMware 仮想マシン（VM）やベアメタル サーバ（BM）と、管理者によって指定されたルールに基づく内部プライベート ネットワークの集合です。アプリケーション コンテナには 1 つ以上の VM または BM を含めることができ、外部クラウドまたはパブリック クラウドにはフェンシング ゲートウェイ（たとえば、仮想セキュア ゲートウェイ）で保護することができます。

管理者は、適切なポリシー、ワークフロー、テンプレートを使用して、1 つ以上のアプリケーション コンテナ テンプレートを作成できます。アプリケーション コンテナ テンプレートによって、エンドユーザに対してアプリケーションをどのようにプロビジョニングするかが決定します。

使用可能なすべてのアプリケーション コンテナとすべての関連する VM、ベア メタル サーバ、ネットワーク レイヤ マッピング、L4-L7 サービス、およびコントラクトを表示できます。アプリケーションコンテナに関する追加の詳細を表示するには、そのアプリケーションコンテナがある行をクリックし、[詳細の表示（View Details）] をクリックします。

アプリケーション コンテナ レポートの表示

各コンテナについての概要レポート、クレデンシャルによる詳細レポート、およびクレデンシャルなしでの詳細レポートを生成できます。クレデンシャルを使用してレポートを生成する場合、パスワードはプレーンテキストで表示されます。レポートヘッダーには、コンテナの作成に使用されたサービス リクエスト ID が表示されます。

（注） クレデンシャルなしでレポートを生成すると、レポートにパスワードが表示されなくなります。

ステップ 1 [仮想リソース（Virtual Resources）] を選択します。

ステップ 2 [仮想リソース（Virtual Resources）] ページで、[アプリケーション コンテナ（Application Containers）] をクリックします。

ステップ 3 レポートを表示するアプリケーション コンテナを含む行をクリックします。

ステップ 4 [レポートの表示（View Reports）] をクリックします。

ステップ 5 [コンテナレポートの表示（View Container Reports）] 画面で、[レポート タイプの選択（Select Report Type）] ドロップダウン リストから生成するレポートのタイプを選択します。

ステップ 6 [送信（Submit）] をクリックします。

アプリケーション コンテナの電源管理

アプリケーション コンテナの電源を有効または無効にすることができます。

ステップ 1 [仮想リソース（Virtual Resources）] を選択します。

ステップ 2 [仮想リソース（Virtual Resources）] ページで、[アプリケーション コンテナ（Application Containers）] をクリックします。

ステップ 3 電源をオンまたはオフにするアプリケーション コンテナをクリックします。

ステップ 4 [コンテナの電源をオンにする（Power On Container）] または [コンテナの電源をオフにする（Power Off Container）] をクリックします。

ステップ 5 [コンテナの電源をオンにする（Power On Container）] または [コンテナの電源をオフにする（Power Off Container）] 画面で、電源をオンまたはオフにするプロビジョニングされた VM を選択します。

ステップ 6 [送信（Submit）] をクリックします。

アプリケーション コンテナの廃止

不要になったアプリケーションコンテナを廃止できます。アプリケーション コンテナを廃止すると、プロビジョニングされた VM の電源はオフになりますが、削除されません。

ステップ 1 [仮想リソース（Virtual Resources）] を選択します。

ステップ 2 [仮想リソース（Virtual Resources）] ページで、[アプリケーション コンテナ（Application Containers）] をクリックします。

ステップ 3 廃止するアプリケーション コンテナをクリックします。

ステップ 4 [コンテナの廃止（Decommission Container）] をクリックします。

ステップ 5 [コンテナの廃止（Decommission Container）] 画面で、プロビジョニングされた VM の電源をオフにします。

ステップ 6 [送信（Submit）] をクリックします。

アプリケーション コンテナの複製

既存のアプリケーション コンテナを複製できます。アプリケーション コンテナを複製すると、すべての設定と設定データが元のアプリケーション コンテナに含まれている VM とともに保持されます。

ステップ 1 [仮想リソース（Virtual Resources）] を選択します。

ステップ 2 [仮想リソース（Virtual Resources）] ページで、[アプリケーション コンテナ（Application Containers）] をクリックします。

ステップ 3 複製するアプリケーション コンテナをクリックします。

ステップ 4 [コンテナの複製（Clone Container）] をクリックします。

ステップ 5 [コンテナの複製（Clone Container）] 画面で、新しいコンテナ名と新しいコンテナ ラベルを指定します。コンテナ ラベルは一意である必要があります。

ステップ 6 [送信（Submit）] をクリックします。
アプリケーション コンテナ テーブルに複製されたコンテナが表示されます。

アプリケーション コンテナへの VM の追加

自分またはグループが利用できる導入済みのアプリケーション コンテナのいずれかに VM を排他的に追加できます。

ステップ 1 [仮想リソース（Virtual Resources）] を選択します。

ステップ 2 [仮想リソース（Virtual Resources）] ページで、[アプリケーション コンテナ（Application Containers）] をクリックします。

ステップ 3 1 つ以上の VM を追加するアプリケーション コンテナをクリックします。

ステップ 4 [その他のアクション（More Actions）] ドロップダウン リストから [VM の追加（Add VMs）] を選択します。

ステップ 5 [VM の管理（Manage VMs）] 画面で行を選択し、鉛筆アイコンをクリックします。

ステップ 6 [仮想マシン エントリの編集（Edit Virtual Machines Entry）] 画面で、プロビジョニングする追加 VM インスタンスの数を入力し、[送信（Submit）] をクリックします。

（注） 管理者は、プロビジョニング可能な VM インスタンスの最大数を定義します。インスタンスの許可される最大数を超える値を入力すると、エラー メッセージが表示されます。

ステップ 7 [VM の管理（Manage VMs）] 画面で、[送信（Submit）] をクリックします。

導入済み APIC アプリケーション コンテナへのベア メタル サーバの追加

ベア メタル サーバは、APIC コンテナでのみサポートされます。導入済み APIC アプリケーション コンテナにベア メタル サーバを追加できます。

ステップ 1 [仮想リソース（Virtual Resources）] を選択します。

ステップ 2 [仮想リソース（Virtual Resources）] ページで、[アプリケーション コンテナ（Application Containers）] をクリックします。

ステップ 3 1 つ以上のベア メタル サーバを追加するアプリケーション コンテナをクリックします。

ステップ 4 [その他のアクション（More Actions）] ドロップダウン リストから [BM の追加（Add BMs）] を選択します。

ステップ 5 [BM の追加（Add BMs）] 画面で、[追加（Add）] をクリックして新しいベア メタル サーバを追加します。

ステップ 6 [ベア メタル アプリケーション コンポーネントへのエントリの追加（Add Entry to Bare Metal Application Components）] 画面で、必須フィールドに値を入力します。

ステップ 7 [送信（Submit）] をクリックします。
新しく追加されたベア メタル サーバが [ベア メタル アプリケーション コンポーネント（Bare Metal Application Components）] リストに追加されます。

ステップ 8 [BM の追加（Add BMs）] 画面で、ベア メタル サーバをさらに追加するか、[送信（Submit）] をクリックします。

アプリケーション コンテナの削除

不要になったアプリケーション コンテナを削除できます。アプリケーション コンテナを削除すると、そのアプリケーション コンテナにプロビジョニングされたリソースも削除されます。[コンテナの削除（Delete Container）] アクションが開始されると、アプリケーション コンテナの設定がロールバックされ、サービス リクエストが作成されます。

ステップ 1 [仮想リソース（Virtual Resources）] を選択します。

ステップ 2 [仮想リソース（Virtual Resources）] ページで、[アプリケーション コンテナ（Application Containers）] をクリックします。

ステップ 3 削除するアプリケーション コンテナをクリックします。

ステップ 4 [その他のアクション（More Actions）] ドロップダウン リストから [コンテナの削除（Delete Container）] を選択します。

ステップ 5 [コンテナの削除（Delete Container）] 画面で、[送信（Submit）] をクリックします。

（注） L4-L7 サービスが関連付けられているアプリケーション コンテナを削除すると、L4-L7 サービスも削除されます。

VM コンソールへのアクセス

アプリケーション コンテナに関連付けられた VM の VM コンソールを表示できます。

はじめる前に

アクセスする VM 上で VNC を設定する必要があります。

ステップ 1 [仮想リソース（Virtual Resources）] を選択します。

ステップ 2 [仮想リソース（Virtual Resources）] ページで、[アプリケーション コンテナ（Application Containers）] をクリックします。

ステップ 3 VM コンソールを表示するアプリケーション コンテナをクリックします。

ステップ 4 [その他のアクション（More Actions）] ドロップダウン リストから [コンソールを開く（Open Console）] を選択します。

ステップ 5 [VM コンソールにアクセス（Access VM Console）] 画面で、[VM の選択（Select VM）] ドロップダウン リストから VM を選択します。

ステップ 6 [送信（Submit）] をクリックします。
選択した VM のコンソールが新しいブラウザ ウィンドウで開きます。

リソース制限の編集

アプリケーション コンテナのリソース制限を編集できます。vCPU の数、メモリ容量、最大ストレージの制限、コンテナのハーフ幅サーバとフル幅サーバの最大数を指定できます。

ステップ 1 [仮想リソース（Virtual Resources）] を選択します。

ステップ 2 [仮想リソース（Virtual Resources）] ページで、[アプリケーション コンテナ（Application Containers）] をクリックします。

ステップ 3 リソース制限を編集するアプリケーション コンテナをクリックします。

ステップ 4 [その他のアクション（More Actions）] ドロップダウン リストから [リソース制限の編集（Edit Resource Limits）] を選択します。

ステップ 5 [コンテナの制限（Container Limits）] 画面で、[リソース制限の設定（Configure Resource Limit）] をオンにします。

ステップ 6 必須フィールドに値を入力し、[送信（Submit）] をクリックします。

コスト モデルの編集

コスト モデルを使用して、仮想リソースの CPU、RAM、ストレージなどのユニット レベルのコストを定義します。これらのコストは、仮想インフラストラクチャ内の VM のチャージバック計算に使用されます。管理者は、コスト モデルをアプリケーション コンテナ テンプレートにマップできます。アプリケーション コンテナのコスト モデルを編集できます。

ステップ 1 [仮想リソース（Virtual Resources）] を選択します。

ステップ 2 [仮想リソース（Virtual Resources）] ページで、[アプリケーション コンテナ（Application Containers）] をクリックします。

ステップ 3 コスト モデルを編集するアプリケーション コンテナをクリックします。

ステップ 4 [その他のアクション（More Actions）] ドロップダウン リストから [コスト モデルの編集（Edit Cost Model）] を選択します。

ステップ 5 [コンテナ コスト モデル（Container Cost Model）] 画面で、[コスト モデル（Cost Model）] ドロップダウン リストから原価モデルを選択します。
ドロップダウン リストに、アプリケーション コンテナにマップされている使用可能なコスト モデルが表示されます。

ステップ 6 [送信（Submit）] をクリックします。

アプリケーション コンテナ コントラクトの追加

コントラクトは、エンドポイント グループ間（EPG 間）通信を有効にするポリシーです。このポリシーは、アプリケーション層間の通信を指定するルールです。

ステップ 1 [仮想リソース（Virtual Resources）] を選択します。

ステップ 2 [仮想リソース（Virtual Resources）] ページで、[アプリケーション コンテナ（Application Containers）] をクリックします。

ステップ 3 コントラクトを追加するアプリケーション コンテナをクリックします。

ステップ 4 [詳細の表示（View Details）] をクリックします。

ステップ 5 アプリケーション コンテナの詳細ページで、[コントラクト（Contracts）] をクリックします。

ステップ 6 [コントラクトの追加（Add Contract）] をクリックします。

ステップ 7 [コントラクトの追加（Add Contract）] 画面で、次の必須フィールドに値を入力します。

a) コントラクト ルールを適用するソース ネットワークと宛先ネットワークを選択します。
コントラクトが同じコンテナの階層の間にある場合は、同じコンテナに属する階層を選択できますが、そうでない場合は、異なるコンテナから階層を選択できます。

b) [ルールの作成（Create rule）] をオンにし、フィルタ ルールを作成します。
[ルールの作成（Create rule）] がオンでない場合は、空のコントラクトが作成されるだけです。

c) 通信に使用するプロトコルを選択します。
[TCP] または [UDP] を選択すると、送信元ポートと宛先ポートの開始範囲と終了範囲の追加フィールドが表示されます。

d) [双方向に適用（Apply Both Directions）] をオンにして、送信元から宛先へのトラフィックと宛先から送信元へのトラフィックにコントラクトを適用します。

e) [アクション（Action）] ドロップダウン リストから、コントラクトに一致するトラフィックに対して実行するアクションを選択します。

ステップ 8 [送信（Submit）] をクリックします。

VM

ユーザは、管理者によって許可された、プロビジョニング後のライフサイクル管理アクションを実行できます。ユーザ グループの下でサービス リクエストを使用して、プロビジョニングされた VM の全リストを表示できます。VM レポートを表示するには、[仮想リソース（Virtual Resources）] の下で [VM] を選択します。

VM レポートには、使用可能なすべての VM に加えて、次の情報が表示されます。

- クラウド

- VM-ID
- VM ラベル
- VM 名
- ホスト名（Host Name）
- IP アドレス
- イメージ ID
- 電源状態
- 保護されている VM
- グループ名（Group Name）
- VDC
- カテゴリ（Category）
- プロビジョニング時間
- 予定終了時刻（Scheduled Termination Time）
- 最後のステータス更新（Last Status Update）
- ゲスト OS のタイプ（Guest OS Type）
- VM の注記
- カスタム属性（Custom Attributes）
- 割り当てられているユーザ
- アクセスできるユーザ
- 管理できるユーザ
- タグ
- VMM クラウド

VM に関する追加の詳細を表示するには、その VM がある行をクリックし、[詳細の表示（View Details）] をクリックします。

（注） エンド ユーザ ポータル バージョン 6.5 以降、VM レポートには、[vCenter VM ID] フィールドおよび [vCenter IP] フィールドが表示されなくなりました。

VM のインベントリ収集のリクエスト

VM のオンデマンド インベントリ収集をリクエストできます。

ステップ 1 [仮想リソース（Virtual Resources）] を選択します。

ステップ 2 [仮想リソース（Virtual Resources）] ページで、[VM] をクリックします。

ステップ 3 インベントリを収集する VM を含む行をクリックします。

ステップ 4 [その他のアクション（More Actions）] ドロップダウン リストから [VM のインベントリ収集のリクエスト（Inventory Collection Request for VM）] を選択します。

ステップ 5 [VMインベントリ収集のリクエスト（Request VM Inventory Collection）] 画面で、[送信（Submit）] をクリックします。
VM のレポートと VM の詳細ページは、インベントリ収集リクエストの更新情報で更新されます。

VM アクション リクエスト

使用可能なすべてのVMアクション リクエストとその詳細を表示するには、[仮想リソース（Virtual Resources）] の下で [VM アクション リクエスト（VM Action Requests）] を選択します。

また、特定の VM に関連付けられた VM アクション リクエストを表示するには、その VM の詳細ページで [VM アクション リクエスト（VM Action Requests）] を選択します。

VM アクション リクエスト レポートには、使用可能なすべての VM アクション リクエストに加えて、次の情報が表示されます。

- VM ID
- アクション ID
- ユーザ名
- コメント
- 予定時刻
- ステータス

イメージ

イメージは、仮想マシン（VM）の作成とプロビジョニングに使用できるテンプレートです。イメージには通常、指定されたオペレーティング システムと設定が含まれており、ハードウェアコ

ンポーネントに対する仮想的なカウンターパートを提供します。イメージでは、繰り返して展開する VM の設定を保持するうえで、安全な方法を提供します。

使用可能な VM とその詳細を表示するには、[仮想リソース（Virtual Resources）] の下で [イメージ（Images）] を選択します。イメージ レポートのイメージ ID は、ユーザまたはユーザのグループに割り当てられています。イメージ ID を使用新しい VM をプロビジョニングできます。また、不要なイメージ ID を選択して、削除することもできます。

イメージ レポートには、使用可能なすべてのイメージに加えて、次の情報が表示されます。

- ID
- クラウド
- イメージ ID
- 親ノード
- データセンター
- ゲスト OS
- インストールされている VMware ツール
- VMware ツールのバージョン
- VM のバージョン
- プラットフォーム
- アーキテクチャ
- CPU の数
- メモリ（MB）
- プロビジョニング済みディスク（GB）
- イメージのロケーション
- CPU 予約（MHz）
- CPU の制限（MHz）
- CPU 共有
- メモリ予約（MHz）
- メモリ制限（MHz）
- メモリ共有
- コミットされていないストレージ（GB）
- グループ/ユーザ

リソース プール

使用可能なクラウドと関連する設定情報を確認できます。リソースの詳細はホスト ノード レベルです。リソース プール レポートを表示するには、[物理リソース（Physical Resources）] の下で [リソース プール（Resource Pools）] を選択します。

リソース プール レポートには、使用可能なすべてのリソース プールに加えて、次の情報が表示されます。

- ID
- クラウド
- データセンター名
- オーナー
- リソース プール名
- 親
- ステータス
- CPU の設定済み予約（MHz）
- CPU の制限（MHz）
- CPU の使用済み予約（MHz）
- CPU の拡張可能予約
- メモリの設定済み予約
- メモリ制限（MHz）
- メモリの使用済み予約（MHz）
- メモリの拡張可能予約
- グループ/ユーザ
- タグ

第 9 章

物理リソース

- 物理リソース，63 ページ
- ボリューム グループ，64 ページ
- vFiler，64 ページ
- ストレージ仮想マシン，67 ページ
- サーバ，75 ページ
- サービス プロファイル，75 ページ
- VNX LUN，77 ページ
- VNX ボリューム，77 ページ
- ブロック ストレージ プール，78 ページ
- RAID グループ，78 ページ
- ファイル ストレージ プール，79 ページ
- ラック サーバ，79 ページ
- CloudSense レポート，80 ページ

物理リソース

[物理リソース（Physical Resources）] メニュー オプションは、物理リソースとカスタマイズ可能なレポートのサマリーを表示します。

次の物理リソースの表示または管理ができます。

- ボリューム グループ
- vFiler
- SVM

- VLAN
- サーバ
- サービス プロファイル
- VNX LUN
- ブロック ストレージ プール
- RAID グループ
- ファイル ストレージ プール
- VNX ボリューム
- ラック サーバ
- CloudSense レポート

ボリューム グループ

Invicta ボリューム グループは、システムにマウントされている物理ディスクまたはドライブを 1 つの管理ユニットに統合します。論理ボリュームは、ボリューム グループの一番上に作成され、物理リソースの管理に柔軟性をもたらします。ボリューム グループ レポートを表示するには、[物理リソース（Physical Resources）] の下で [ボリューム グループ（Volume Groups）] を選択します。

ボリューム グループ レポートには、使用可能なすべてのボリューム グループに加えて、次の情報が表示されます。

- アカウント名（Account Name）
- ボリューム グループ名
- サイズ（GB）
- 使用できるサイズ（GB）
- ステータス
- SSN
- グループ/ユーザ

vFiler

vFiler は物理ストレージ アレイに展開された NetApp ONTAP 7 モードの仮想コンテナで、コントローラ内で複数のインスタンスを作成します。vFiler は、単一のストレージ システムのストレージとネットワーク リソースを分割して、ネットワーク上の複数のストレージ システムの外観を提供するために使用されます。vFiler レポートを表示するには、[物理リソース（Physical Resources）] の下で [vFiler] を選択します。

vFiler レポートには、使用可能なすべての vFiler に加えて、次の情報が表示されます。

- アカウント名（Account Name）
- ファイラ
- 名前
- IP 空間
- IP アドレス
- サブネット マスク（Subnet mask）
- DNS 名
- DNS サーバ
- 管理ホスト
- UUID
- グループ/ユーザ

vFilerに関する追加の詳細を表示するには、そのvFilerがある行をクリックし、[詳細の表示（View Details）] をクリックします。

vFiler ボリューム

vFilerに関連付けられているボリュームの詳細を表示し、管理することができます。vFilerボリューム レポートを表示するには、vFiler の詳細ページから [vFiler ボリューム（vFiler Volumes）] を選択します。

vFilerボリューム レポートには、vFilerに関連付けられているすべてのボリュームと次の情報が表示されます。

- アカウント名（Account Name）
- ファイル名
- vFiler 名
- 名前
- タイプ（Type）
- 包含集約
- 使用可能、使用済み、および合計容量（GB）
- 使用率
- 容量保証
- 予約済みスナップショット
- 重複排除有効

- ストレージ節約量とストレージ効率
- 予約ブロック
- エクスポート パス
- CIFS 共有名
- セキュリティ スタイル
- ミラー ステータス

vFilerボリュームに関する追加の詳細を表示するには、そのvFilerボリュームがある行をクリックし、[詳細の表示（View Details）] をクリックします。

vFiler ボリューム LUN

vFilerボリュームに関連付けられている論理ユニット番号（LUN）を表示するには、ボリュームを選択し、そのボリュームの詳細を表示します。

LUN レポートには vFiler LUN に関する情報が表示されます。

- アカウント名（Account Name）
- ファイル名
- 名前
- タイプ（Type）
- 包含集約
- 状態
- 使用可能（GB）
- 使用済み（GB）
- 合計（GB）
- 使用率
- 容量保証
- 予約済みスナップショット
- 重複排除有効
- ストレージ節約量
- ストレージ効率

SnapMirror

NetApp SnapMirror ソフトウェアは、エンタープライズ レベルのディザスタ リカバリおよびデータ配信ソリューションです。SnapMirror は、データを LAN または WAN 接続を介して 1 つ以上のネットワーク ファイルに高速でミラーリングする Data ONTAP のデータ レプリケーション機能です。SnapMirror レポートを表示するには、vFilers の詳細ページから [SnapMirror] を選択します。

SnapMirror レポートには、vFiler に関連付けられたすべての SnapMirror に加え、次の情報が表示されます。

- アカウント名（Account Name）
- ファイル名
- 送信元および宛先の場所
- ステータス
- 状態
- 前回の転送タイプ、サイズ、期間
- 転送の進捗状況
- 現在の転送タイプとエラー
- 遅延時間
- ミラー タイム スタンプ
- 目次
- ベース スナップショット

スケジュール済みの SnapMirror のリレーションの表示とステータス履歴を表示するには、その SnapMirror がある行で [詳細の表示（View Details）] をクリックします。

ストレージ仮想マシン

ストレージ仮想マシン（SVM）は、以前は NetApp 仮想ストレージ サーバ（Vserver）と呼ばれており、複数のプロトコルとユニファイド ストレージをサポートする仮想化サーバです。SVM は、共有されている仮想データ ストレージとネットワークを安全に分離し、各 SVM はクライアントからは単一の専用サーバとして認識されます。

SVM は、ストレージ システムと同じように、物理ストレージまたはコントローラに関係なくクライアントにデータ アクセスを提供します。SVM はクラスタのストレージとネットワーク リソースを使用しますが、各 SVM には専用のボリュームと論理インターフェイス（LIF）が含まれています。

各 SVM には、1 つ以上のボリュームと 1 つの論理インターフェイスが含まれています。また、各 SVM には個別の管理者認証ドメインがあり、SVM 管理者によって独立して管理することができ

ます。SVM 管理者は、クラスタの管理者によって割り当てられた機能に応じて、SVM とそのリソース（ボリューム、プロトコル、サービスなど）を管理できます。

データを提供するには、各クラスタに SVM が 1 つ以上必要です。複数の SVM をクラスタ内のいずれかの単一ノードにバインドすることなく、1 つのクラスタで共存させることができますが、SVM が存在する物理クラスタにバインドする必要があります。

SVM レポートを表示するには、[物理リソース（Physical Resources）] の下で [SVM] を選択します。SVM レポートには、使用可能なすべての SVM に加えて、次の情報が表示されます。

- アカウント名（Account Name）
- クラスタ名（Cluster Name）
- 名前
- タイプ（Type）
- 状態
- NFS サービス ステータス
- ルート ボリューム
- アグリゲート
- LIF
- 最大ボリューム
- 許可されるプロトコル
- アクセス ウイルス対策ポリシー
- クォータ ポリシー
- サービス スイッチ名
- スイッチのマッピング名
- ノード名
- グループ/ユーザ
- タグ

SVM に関する追加の詳細を表示するには、その SVM がある行をクリックし、[詳細の表示（View Details）] をクリックします。

SVM ボリューム

SVM に関連付けられたボリュームの詳細を表示するには、SVM の詳細ページから [ボリューム（Volumes）] を選択します。ボリューム レポートには、SVM に関連付けられているすべてのボリュームと次の情報が表示されます。

- アカウント名（Account Name）

- クラスタ名（Cluster Name）
- SVM
- 名前
- タイプ（Type）
- Is SVM ルート
- 包含集約
- ノード名
- ステータス
- 使用可能、使用済み、および合計容量（GB）
- 圧縮によりスペースを節減
- 重複排除によりスペースを節減
- セキュリティ スタイル
- スナップショット ポリシー
- エクスポート ポリシー
- 使用率
- 容量保証
- 予約済みスナップショット
- ジャンクション パス
- CIFS 共有名
- 重複排除有効
- グループ/ユーザ

SVM に関連付けられているボリュームに関する追加の詳細を表示するには、そのボリュームがある行をクリックし、[詳細の表示（View Details）] をクリックします。

SVM LUN

SVM に関連付けられた LUN の詳細を表示するには、SVM の詳細ページから [LUN] を選択します。LUN レポートには、SVM に関連付けられているすべての LUN と次の情報が表示されます。

- アカウント名（Account Name）
- クラスタ名（Cluster Name）
- SVM
- 音量

- 名前
- LUN ID
- データストア
- ホストノード
- パス
- 状態
- 読み取り専用
- サイズと使用済みサイズ（GB）
- マッピング先
- 容量予約の有効化
- 状態の共有
- OS タイプ

SVM に関連付けられている LUN の詳細を表示するには、その LUN がある行をクリックし、[詳細の表示（View Details）] をクリックします。

SVM イニシエータ グループ

イニシエータ グループ（igroup）は LUN にアクセス可能なイニシエータを示します。SVM に関連付けられたイニシエータ グループの詳細を表示するには、SVM の詳細ページから [イニシエータ グループ（Initiator Groups）] を選択します。イニシエータ グループ レポートには、SVM に関連付けられているすべてのイニシエータ グループと次の情報が表示されます。

- アカウント名（Account Name）
- クラスタ名（Cluster Name）
- SVM
- 名前
- Group Type
- OS タイプ
- ポートセット名

SVM イニシエータ

イニシエータはストレージ システム上の指定した LUN にアクセス可能なホストです。各イニシエータはワールド ワイド ポート名（WWPN）で識別されます。同じイニシエータ グループ内のすべてのイニシエータが同じオペレーティング システムを実行する必要があります。イニシエー

タは、オペレーティング システムのタイプが異なる 2 つのイニシエータ グループのメンバーになることはできません。また、イニシエータは同じ LUN にマップされている複数のイニシエータ グループに属することはできません。イニシエータ レポートを表示するには、SVM の詳細ページから [イニシエータ（Initiators）] を選択します。

イニシエータ レポートには、SVM に関連付けられているすべてのイニシエータと次の情報が表示されます。

- アカウント名（Account Name）
- クラスタ名（Cluster Name）
- 名前
- イニシエータ グループ
- グループ タイプ
- OS タイプ

SVM CIFS 共有

CIFS 共有は、ボリューム上の名前付きアクセス ポイントで、CIFS クライアントがファイル サーバ上のファイルにアクセスできるようにします。CIFS 共有レポートを表示するには、SVM の詳細ページから [CIFS 共有（CIFS Shares）] を選択します。CIFS 共有レポートには、SVM に関連付けられているすべての CIFS 共有と次の情報が表示されます。

- アカウント名（Account Name）
- クラスタ名（Cluster Name）
- 共有名
- マウント ポイント
- ユーザ/グループ
- アクセス制御
- 説明

SVM SIS ポリシー

圧縮や重複排除などのシングル インスタンス ストレージ（SIS）操作を実行するための SIS ポリシーを定義できます。データ圧縮はオンデマンドで、またはスケジュールされたバックグラウンド処理として使用できます。ポリシーには重複排除を含めることができます。重複排除は、各固有データ ブロックの単一のインスタンスのみが保存されている FlexVol ボリュームの重複データ ブロックを排除することで、ディスク領域の使用率を低減する方法です。SIS ポリシー レポートを表示するには、SVM の詳細ページから [SIS ポリシー（SIS Policies）] を選択します。

SIS ポリシー レポートには、SVM に関連付けられているすべての SIS ポリシーと次の情報が表示されます。

- アカウント名（Account Name）
- クラスタ名（Cluster Name）
- SVM
- ポリシー名
- QoS ポリシー
- スケジュール済み（Scheduled）
- 有効
- 時間（Duration）
- コメント

SVM エクスポート ポリシー

エクスポートポリシーには、ボリュームへのクライアントアクセスを制御するエクスポートルールが含まれます。エクスポートポリシーは、クライアントがデータにアクセスできるようにSVM上にある必要があります。エクスポート ポリシーは、各ボリュームと関連付けてボリュームへのクライアント アクセスを設定する必要があります。

単一の SVM に複数のエクスポート ポリシーを含めることができます。複数のボリュームを持つ 1 つの SVM には、以下のものを設定できます。

- 各ボリュームに対して別個にクライアント アクセス制御を行うための、SVM の各ボリュームに割り当てられた異なるエクスポート ポリシー。
- 各ボリュームに対し新しいエクスポート ポリシーを作成することなく同じクライアント アクセス制御を行うための、SVM の複数のボリュームに割り当てられた同一のエクスポート ポリシー。

エクスポートポリシー レポートを表示するには、SVMの詳細ページから[エクスポートポリシー（Export Policies）] を選択します。

エクスポートポリシー レポートには、SVMに関連付けられているすべてのエクスポートポリシーと次の情報が表示されます。

- アカウント名（Account Name）
- クラスタ名（Cluster Name）
- SVM
- ポリシー名

SVM エクスポート ルール

エクスポートルールによって、ボリュームへのクライアントアクセス要求の処理方法が決まります。クライアントへのアクセスを許可するには、少なくとも 1 つのエクスポート ルールをエクスポートポリシーに追加する必要があります。エクスポートポリシーに複数のルールを含めると、ルールはルール インデックスに基づいて処理されます。ルールの作成時にルールのインデックス番号を指定できます。処理される順序にエクスポート ルールを並べ替えることができます。

ルールで定義されたアクセス許可は、エクスポート ルールで指定した一致基準に一致するクライアントに適用されます。エクスポート ルール レポートを表示するには、SVM の詳細ページから [エクスポート ルール（Export Rules）] を選択します。

エクスポート ルール レポートには、SVM に関連付けられているすべてのエクスポート ルールと次の情報が表示されます。

- アカウント名（Account Name）
- クラスタ名（Cluster Name）
- ポリシー名
- クライアント一致
- ルール インデックス
- RO アクセス ルール
- RW アクセス ルール
- アクセス プロトコル
- NTFS Unix のセキュアな運用
- chown モード

SVM スナップショット ポリシー

スナップショット ポリシーは SVM のスナップショット ポリシーのスケジュールを自動的に管理します。スナップショット ポリシーには 最大 5 つのスナップショット ポリシーのスケジュールを設定でき、自動的に作成されるスナップショット コピーの頻度と最大数を指定します。

スナップショットポリシーを使用して、指定したスケジュールに応じて作成されたスナップショットを識別する NetApp SnapMirror のラベルを指定できます。SnapMirror のラベルは、SnapVault に転送するスナップショットを識別するために使用されます。スナップショット ポリシーでプレフィックスを指定すると、スナップショット名にプレフィックスが付いたスナップショットが作成されます。スナップショット名にプレフィックスを使用すると、自動スナップショットの命名でスケジュールの名前を使用するよりも高い柔軟性が得られます。

スナップショット ポリシー レポートを表示するには、SVM の詳細ページから [スナップショット ポリシー（Snapshot Policies）] を選択します。

スナップショット ポリシー レポートには、SVM に関連付けられているすべてのスナップショット ポリシーと次の情報が表示されます。

- アカウント名（Account Name）
- クラスタ名（Cluster Name）
- SVM
- 名前
- ポリシー所有者
- 有効
- 合計スケジュール
- コメント

スナップショットポリシーに関する追加の詳細を表示するには、そのスナップショットポリシーがある行をクリックし、[詳細の表示（View Details）] をクリックします。

SVM ポート セット

ポート セットは、ファイバ チャネル（FC）ターゲット ポートのグループで構成されています。LUN をストレージ システムのターゲット ポートのサブセットだけで使用できるようにするには、ポート セットを igroup にバインドします。igroup 内のホストは、ポート セットのターゲット ポートに接続することによってのみ LUN にアクセスできます。

igroup がポート セットにバインドされていない場合、igroup にマッピングされている LUN はすべてのストレージ システム FC ターゲット ポートで使用できます。igroup は、どのイニシエータ LUN がエクスポートされるかを制御します。ポート セットは、それらのイニシエータがアクセスできるターゲット ポートを制限します。

ポートセット レポートを表示するには、SVM の詳細ページから [ポートセット（Portsets）] を選択します。

ポートセット レポートには、SVM に関連付けられているすべてのポートセットと次の詳細が表示されます。

- アカウント名（Account Name）
- クラスタ名（Cluster Name）
- SVM
- 名前
- ポートセット タイプ
- 合計ポート数
- ポート

SVM WWPN エイリアス

WWPN は、Data ONTAP で 16 文字の 16 進値として表示される一意な 64 ビットの ID です。管理者は、エイリアスを代わりに使用して FC ポートをより簡単に識別できる場合があります。SVM に関連付けらた WWPN エイリアスの詳細を表示できます。WWPN エイリアス レポートを表示するには、SVM の詳細ページから [WWPN エイリアス（WWPN Aliases）] を選択します。

WWPN エイリアス レポートには、SVM に関連付けられているすべての WWPN エイリアスと次の情報が表示されます。

- アカウント名（Account Name）
- クラスタ名（Cluster Name）
- SVM
- WWPN エイリアス
- WWPN

サーバ

すべての使用可能な物理サーバの詳細をモニタおよび表示できます。サーバ レポートを表示するには、[物理リソース（Physical Resources）] の下で [サーバ（Servers）] を選択します。

サーバ レポートには、使用可能なすべての物理サーバに加えて、次の情報が表示されます。

- 名前
- モデル
- 合計メモリ（MB）
- 関連付けられたステータス
- 処理のステータス（Operation Status）
- サービス プロファイル（Service Profile）
- 電源状態
- IP アドレス

サービス プロファイル

サービス プロファイルは、関連するサーバ ハードウェアで、ホストするアプリケーションのサポートに必要な設定が行われていることを保証します。サービスプロファイルは、サーバハードウェア、インターフェイス、ファブリックの接続性、サーバおよびネットワークの ID に関する設定情報を維持します。

すべてのアクティブなサーバにサービス プロファイルを関連付ける必要があります。

（注） どのようなときでも、1 台のサーバに 1 つのサービス プロファイルだけを関連付けられます。同様に、1 つのサービス プロファイルは、一度にサーバ 1 つだけに関連付けられます。

サービスプロファイルをサーバと関連付けると、このサーバにオペレーティングシステムとアプリケーションをインストールできるようになります。また、サービス プロファイルを使用して、サーバの設定を確認することができます。サービス プロファイルとの関連付けを形成しているサーバで不具合が発生しても、サービス プロファイルが自動的に別のサーバにフェールオーバーすることはありません。

サービス プロファイルとサーバとの関連付けが解除されると、このサーバの ID および接続情報は、工場出荷時のデフォルトにリセットされます。

サービス プロファイル レポートを表示するには、[物理リソース（Physical Resources）] の下で [サービス プロファイル（Service Profiles）] を選択します。

サービス プロファイル レポートには、使用可能な各サービス プロファイルの次の情報が表示されます。

- DN
- 名前
- 関連付けられたステータス
- タイプ（Type）
- FSM ステータス
- 割り当て済みのサーバまたはサーバ プール
- 動作状態
- 状態の設定
- 状態の割り当て
- グループ/ユーザ
- テンプレート インスタンス
- ポリシー所有者
- メンテナンス ポリシー
- ストレージ プロファイル
- vMedia ポリシー

サービスプロファイルに関する追加の詳細を表示するには、そのサービスプロファイルがある行をクリックし、[詳細の表示（View Details）] をクリックします。

VNX LUN

EMC VNX LUN は、ブロックまたはファイル ストレージ アレイのボリューム内のストレージ エンティティを識別するために使用される論理ユニット番号（LUN）です。VNX LUN レポートを表示するには、[物理リソース（Physical Resources）] の下で [VNX LUN] を選択します。

VNX LUN レポートには、使用可能なすべての VNX LUN に加えて、次の情報が表示されます。

- アカウント名（Account Name）
- 名前
- ID
- ストレージ プール
- RAID グループ ID
- ユーザの容量（GB）
- 現在の所有者
- デフォルトの所有者
- キャッシュ読み取り有効
- 書き込みキャッシュ有効
- グループ/ユーザ

VNX ボリューム

EMC VNX ボリュームは、ファイル システムに記憶域を分散させるブロックまたはファイル ストレージ プールにあります。VNX ボリューム レポートを表示するには、[物理リソース（Physical Resources）] の下で [VNX ボリューム（VNX Volumes）] を選択します。

VNX ボリューム レポートには、使用可能なすべての VNX ボリューム グループに加えて、次の情報が表示されます。

- ボリューム名
- タイプ（Type）
- ストレージ容量（GB）
- 空き容量（GB）
- ストレージ プール
- データ ムーバ

ブロック ストレージ プール

ブロック ストレージ プールは、ストレージ エリア ネットワーク（SAN）ディスクのコレクタの使用可能なディスク ボリュームのグループです。これらは使用可能なストレージをファイル システムに割り当てるために使用されます。ブロック ストレージ プール レポートを表示するには、[物理リソース（Physical Resources）] の下で [ブロック ストレージ プール（Block Storage Pools）] を選択します。

ブロック ストレージ プール レポートには、すべての使用可能なブロック ストレージ プールと、次の情報が表示されます。

- アカウント名（Account Name）
- 名前
- 説明
- 総容量（GB）
- 使用済みの容量（GB）
- 空き容量（GB）
- 物理容量（GB）
- RAID タイプ
- ストレージ プール ID
- LUN 数
- グループ/ユーザ

RAID グループ

RAID（Redundant Array of Independent Disks）は、同じデータを複数のハードディスクの異なる場所に保存する方法を提供します。データを複数のディスクに配置することで、入出力操作をバランスの取れた方法でオーバーラップでき、パフォーマンスが向上します。RAID グループ レポートを表示するには、[物理リソース（Physical Resources）] の下で [RAID グループ（RAID Groups）] を選択します。

RAID グループ レポートには、使用可能なすべての RAID グループに加えて、次の情報が表示されます。

- アカウント名（Account Name）
- RAID グループ ID
- RAID ID
- ドライブ タイプ

- 未処理容量（GB）
- 論理容量（GB）
- 空き容量（GB）
- 省電力設定
- LUN 数
- ディスクの数
- 拡張の割合
- グループ/ユーザ

ファイル ストレージ プール

ファイル ストレージ プールは、使用可能なストレージをファイル システムに割り当てるために使用されるネットワーク ファイル システム（NFS）ディスクのコレクタの使用可能なディスク ボリュームのグループです。ファイル ストレージ プール レポートを表示するには、[物理リソース（Physical Resources）] の下で [ファイル ストレージ プール（File Storage Pools）] を選択します。

ファイル ストレージ プール レポートには、すべての使用可能なファイル ストレージ プールと、次の情報が表示されます。

- 名前
- 説明
- ストレージ容量（GB）
- 使用済みのストレージ（GB）
- タイプ（Type）
- ディスクの種類
- ボリュームを使用
- 使用者（Used By）
- グループ/ユーザ

ラック サーバ

ラック サーバ レポートを表示するには、[物理リソース（Physical Resources）] の下で [ラック サーバ（Rack Servers）] を選択します。

ラック サーバ レポートには、使用可能なすべてのラック サーバに加えて、次の情報が表示されます。

- アカウント名（Account Name）
- モデル
- 処理のステータス（Operation Status）
- UUID
- 電源状態
- IP アドレス

CloudSense レポート

CloudSense分析では、インフラストラクチャリソースの使用率、ITインフラストラクチャスタック全体の重要なパフォーマンス測定指標、およびキャパシティがリアルタイムで提供されます。CloudSense レポートは、仮想およびクラウドインフラストラクチャのキャパシティのトレンド、予測、レポート、およびプランニングの重要な改善を示している場合があります。

次のレポートは、CloudSense から使用できますが、ユーザのシステムで利用可能なレポート数はユーザ ロールによって異なります。

- 顧客の課金レポート
- ENC ストレージ インベントリ レポート
- NetApp のストレージ インベントリ レポート
- グループごとの NetApp ストレージ節約量
- NetApp ストレージ節約量レポート
- ネットワークのインパクト アセスメント レポート
- 仮想コンピューティング インフラストラクチャの組織使用状況
- PNSC アカウントの要約レポート
- グループの物理インフラストラクチャのインベントリ レポート
- ストレージの重複除外状況レポート
- グループのストレージ インベントリ レポート
- シン プロビジョニングされた領域レポート
- UCS データセンターのインベントリ レポート
- グループごとの VM アクティビティ レポート
- VMware ホストのパフォーマンス サマリー
- 仮想インフラストラクチャおよびアセット レポート

（注） MSP 管理者に CloudSense オプションが有効になっている場合、顧客の組織に関連するレポートのみが表示されます。

CloudSense レポートの生成

ステップ 1 [物理リソース（Physical Resources）] を選択します。

ステップ 2 [物理リソース（Physical Resources）] ページで、[CloudSense] をクリックします。

ステップ 3 [レポートの生成（Generate Report）] をクリックします。

ステップ 4 [レポートを生成（Generate Report）] 画面で、[レポート タイプ（Report Type）] ドロップダウン リストから生成するレポートのタイプを選択します。

ステップ 5 [送信（Submit）] をクリックします。

第 10 章

アカウンティング

- アカウンティング，83 ページ

アカウンティング

[アカウンティング（Accounting）] メニュー オプションは、VM リソースの使用状況の詳細と使用コストを表示します。VM のリソース アカウンティングの詳細やチャージバック情報を表示できます。

リソース アカウンティングの詳細

選択したグループに属する VM のリソースの使用状況を表示できます。リソースの使用状況は時間単位で計算されます。リソース アカウンティングの詳細レポートを表示するには、[アカウンティング（Accounting）] の下で [リソース アカウンティングの詳細（Resource Accounting Details）] を選択します。

リソース アカウンティングの詳細レポートには、すべての VM のアカウンティング情報に加えて、次の情報が表示されます。

- VM のアクティブな期間と非アクティブな期間
- CPU の使用
- メモリ スペース
- ストレージ
- 受信ネットワーク データ量
- 転送ネットワークデータ量

VM に関するリソース アカウンティングの追加の詳細を表示するには、その VM ID がある行をクリックし、[詳細の表示（View Details）] をクリックします。

チャージバック

特定のグループのVMのリソースの使用状況の詳細と関連コストを確認できます。コストはグループの vDC に関連付けられたコスト モデルに基づいて計算されます。チャージバック レポートを表示するには、[アカウンティング（Accounting）]の下で[チャージバック（Chargeback）]を選択します。

リソースの詳細には、次の情報が含まれます。

- インスタンス名
- リソース タイプ
- プロビジョニング時間
- アクティブな VM 時間
- 非アクティブな VM 時間
- 平均 CPU 使用率
- 平均メモリ使用量
- コミット済みディスク

リソース関連コストには、以下が含まれます。

- アクティブな VM に関するコスト
- 1 回限りのコスト
- CPU 使用率
- 割り当てメモリ
- 予約済みメモリ
- 使用メモリ
- サーバ
- コミット済みディスク
- 非コミット ディスク
- 受信ネットワーク データ量
- 転送ネットワークデータ量
- 固定費

第 11 章

レポート

- レポート，85 ページ
- レポートの表示，86 ページ
- レポートの電子メール送信，86 ページ

レポート

[CloudSense™] メニューは、特定のグループに 4 つのレポート タイプを提供します。レポートにはそれぞれ事前に定義された形式があります。以下に CloudSense レポートのタイプを示します。

- 顧客のエンドユーザ課金レポート：このレポートでは、顧客によって使用されている VM、CPU、ストレージ、メモリのコスト サマリーが表示されます。また、VM リソースの使用状況と料金の詳細も表示されます。
- グループのインフラストラクチャ インベントリ レポート：このレポートでは、電源状態、サービス プロファイル、VLAN、vFiler、vFiler の下のボリューム、ボリューム グループ、vServer などのサーバの詳細が表示されます。このレポートでは、VM イメージ、リソース プール、データストア、ポート グループ、DV ポート グループなどの仮想リソースのインベントリの詳細も提供されます。
- エンド ユーザ グループの物理インフラストラクチャ インベントリのレポート：このレポートでは、特定のグループの計算、ネットワーク、ストレージなどの物理インフラストラクチャ インベントリのリソースの詳細が表示されます。
- エンド ユーザ グループのストレージ インベントリ レポート：このレポートでは、特定のグループの vFiler、上位 5 つのボリューム、上位 5 つの LUN などのストレージ インベントリの詳細が表示されます。

レポートの表示

ステップ 1 [CloudSense] を選択します。

ステップ 2 [CloudSense] ページで、必要なレポート タイプをクリックします。

ステップ 3 レポート テーブルで、表示するレポートの行をクリックします。

ステップ 4 [レポートを開く（Open Report）] をクリックします。

ステップ 5 [レポートの開始（Launch Report）] 画面で、[形式のタイプ（Format Type）] ドロップダウン リストから、レポートの形式のタイプを選択します。

ステップ 6 [送信（Submit）] をクリックします。
選択したレポートが別ウィンドウに表示されます。

レポートの電子メール送信

ステップ 1 [CloudSense] を選択します。

ステップ 2 [CloudSense] ページで、必要なレポート タイプをクリックします。

ステップ 3 レポート テーブルで、電子メールで送信するレポートの行をクリックします。

ステップ 4 [電子メールレポート（Email Report）] をクリックします。

ステップ 5 [電子メール レポート（Email Report）] 画面で、次の必須フィールドに値を入力します。

a) [送信先（To）] フィールドに、受信者アドレスを入力します。
b) 必要に応じて件名を変更します。
c) [形式タイプ（Format Type）] ドロップダウン リストから、添付するレポートの形式タイプを選択します。

ステップ 6 [送信（Submit）] をクリックします。
電子メール送信の成功または失敗を示すメッセージが表示されます。